

平成28年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 新千葉		主任介護支援専門員 (1) 人	社会福祉士 (2) 人	保健師等 (1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	39,083			
	高齢者人口	9,377			
	高齢化率	23.99%			
担当圏域 地区課題	地域づくりの必要性や具体的な支援体制づくりの方法、予防的な支援介入の必要性について理解を深めることにより、住民意識の向上ならびに地域ごとの活動機会を増やす必要がある。既存の活動や地域に向いての活動提案、周知活動を通じて、地域ごとの住民主体による連携強化と活動増加が期待できると考える。				
活動方針	1. 既存の活動や地域諸団体と定期的な意見交換、情報提供の機会を設け、地区特性や課題の共有、具体的な取り組み方法を提案、後方支援することにより地域包括ケアシステムの構築に繋げる。 2. 介護予防や自立支援の理解を促進し、自主的な活動取り組みに反映されるよう、高齢者自身も含めた自治会、社協地区部会、有識者などの交流機会を設け、高齢者自身も活動担い手として参加できる地域のネットワークづくりに繋げる。				
センター業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員や地域団体等の連絡会議への継続的参加、及び地域ケア会議の開催を提案・実施する（担当圏域内、年4回）。 各中学校地区単位を目安に、勉強会や認知症サポーター養成講座等の活動を年2回開催し、予防的な介入、自立支援に向けた支援方法について理解を働きかける。 既存の朝礼ミニカンファレンスやセンター会議において、初動時の課題整理、リスク予測を確認し、センターとしての支援方針をより明確に共通認識できるようにする。 相談援助におけるアプローチ理論など支援者としての技術維持、向上に向けて、センター内でのケース検討会、内外研修への参加、日常業務におけるOJTを行う。 		<ul style="list-style-type: none"> 民生委員や地域諸団体等の連絡会議への継続的参加に加えて、生活支援コーディネーターとの連携強化により、新たな地域活動団体や老人会等とも関係構築を深めることができた。これに伴い、出張相談の定期開催や早期介入に繋げることが出来た。 地域ケア会議の開催に至らなかった点は、会議の目的やテーマについて理解を得られる働きかけが十分ではなかったからであると感じる。次年度は、個別ケースや地域での困ったケースなどをとりあげた開催を積極的に示していく。 センター内のカンファレンス方法について留意点をまとめ、明文化したことにより、職員個々の意識向上や効果的・効率的な検討ができるようになってきている。 	
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者虐待防止に関する勉強会の開催（地域団体等対象に年2回、居宅介護支援事業所を対象に年1回）。 消費者被害防止、成年後見制度に関する勉強会の開催（担当圏域内、各中学校地区単位を目安に各地区で年1回）。消費者被害に関しては消費生活支援センターによる出前講座等の情報提示も民児協や地域団体等へアピールしていく。 認知症サポーター養成講座の開催（未実施の中学校地区単位を目安に年5回、金融機関など企業や介護保険サービス事業所を対象に年3回）。 訪問等による実態把握ならびに、区高齢障害支援課との連携を保ち早期対応を図る他、定期的な事例検討会を行い、相互の役割理解を深める。 		<ul style="list-style-type: none"> 地域住民や高齢者自身に対して、成年後見制度や相続、消費者被害注意の情報発信を行うことにより、自らの取り組み意識や地域で見守る必要性の意識向上に繋がった。引き続き、この取り組みを続けることで地域ごとのネットワーク構築に繋げていきたい。 認知症サポーター養成講座の開催は、様々な団体からの依頼をいただけるようになったことに加えて、中央区との連携により中学生向けキッズサポーターを開催することができた。住民や企業等の関心が高まっていることを感じており、更に地域での見守り体制に繋がるよう働きかけを行う必要がある。 権利擁護に関する相談・支援においては、引き続き中央区保健福祉センターとの情報共有と連携強化を維持し、迅速な対応に努める。 	
	ケア包括的・継続的・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> 中央区あんしんケアセンター主催の研修会を年3回（6月・9月・2月）、新人ケアマネ育成を目的とした研修会を、年1回（5月）、事例検討会を年2回（7月・11月）に開催し、介護支援専門員の技術向上、制度改正への周知、情報共有など、あんしんケアセンターと居宅支援事業所との顔の見える関係作りに努める。 中央区の主任介護支援専門員連絡会を年6回（5月・7月・11月・1月・3月）開催し、主任介護支援専門員のあるべき役割や地域の中で主任介護支援専門員の自主的な活動に繋がるように理解が深まるように働きかける。 多職種による事例検討会や勉強会を開催し、垣根を越えた関係作りが促進できるように取り組む。 センター内・外部を含めた勉強会や内外の研修会に参加をする。 		<ul style="list-style-type: none"> あんしんケアセンター主催の研修会では、介護支援専門員の資質向上や顔の見える関係作りの促進に繋がった。 新たな試みとして、研修企画段階から医療関係者にも参加いただき、医療連携と顔の見える関係づくり、また、地域の介護支援専門員がどのようなことに苦手意識があるのか、という理解を深めることができた。 担当圏域内で、センター独自の居宅支援事業所向けの勉強会は開催できなかったが、区内あんしんケアセンターと合同での事例検討会を行い、より良い関係作りや技術向上を目指すことへ繋がった。 次年度は、専門職の講師による勉強会を担当圏域内の居宅介護支援事業所へ向けて開催し、更なるスキルアップを図ると共に、地域ケア会議の周知活動を行い、理解を深めたい。 	
	介護予防メンケトア	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民に向けた勉強会を開催（担当圏域内、各中学校地区を目安に年1回）し、要介護状態になることをできる限り防ぐと共に、要介護状態になっても、状態悪化を防ぐ理解と働きかけに取り組む。 昨年度、把握している二次予防対象者ならびに教室終了者に対し、定期的に訪問によるアプローチを行い状況把握をすると共に介護予防教室への参加を促していく。 		<ul style="list-style-type: none"> 以前より、二次予防教室への参加を検討されていた方を教室参加に繋げることが出来た。 独居高齢者へのアプローチを行った際、すでに状態が低下され介護保険認定申請となったケースもあり、安否確認や早期介入にはなったが、予防という視点でのアプローチとしては、より短期間での状況把握が必要と感じた。 	
	普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> 老人会や地区社協の協力のもと地区ごとの課題に即した活動を提案し、自主活動として発足、活動を継続できるように後方支援を行う（アプローチ対象地区は、春日・汐見丘町・登戸4～5丁目）。 地域交流会の自主活動としての内容の充実と継続を後方支援していく。 既存の介護予防教室の活性化を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> 地区毎の課題の明確化には至っていないが、地区住民の介護予防への意識が高まってきていることを確認することができた。介護予防活動を自主的に継続できるように、介護予防教室の企画、実施を参加者と共に取り組む、地域に定着できるよう生活支援コーディネーター等とも連携を図りながら働きかけていく。 	
	地域活動介護予防	<ul style="list-style-type: none"> 地域ケア会議開催を継続し、地域住民との意見交換の場を確保することにより、地域特性に即したかたちの高齢者を見守る体制づくりにつなげる。 認知症サポーター養成講座や介護予防講座を開催し、活動の基盤となる年齢層にも参加を呼びかけ理解を深めることにより地域での見守り活動につなげる。 既存活動や有識者との共同、生活支援コーディネーターとの連携を図り、異世代交流や高齢者自身が役割を担うことのできる活動を企画、実施に取り組む。 		<p>介護予防や認知症の正しい知識と理解を深める機会は、介護予防教室等でミニ健康講話を通じて周知を図っていることから高齢者自身の介護予防に対する必要性の理解を深めることができた。</p> <p>地域での支え合い活動については、担い手不足の問題や地域ごとの意識に差があり、圏域全体としては不十分である。次年度は、異世代が参加できる活動内容や高齢者自身にも役割を担ってもらう内容に配慮しながら継続する。</p>	
	その他	<ul style="list-style-type: none"> 各種研修への参加ならびにセンター内での定期的な評価や指導・助言を行う。 支援者としての客観性、倫理観を意識したリスク管理を行うことができるよう内部勉強会や個別指導を行う。 		<p>各種研修参加や内部勉強会における活動が、地域包括ケアシステムの構築や総合事業移行に向けたセンター機能、支援方法の意識向上や改善に繋がっている。引き続き、リスク管理やセンター機能の理解について、定期的に確認することにより、職員個々の意識を維持した運営に取り組む。</p>	

※人口データは平成28年6月30日現在

平成28年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 中央		主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等
			(2) 人	(1) 人	(1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	42,437			
	高齢者人口	7,939			
	高齢化率	18.71%			
担当圏域 地区課題	継続して地域診断を行ってきたことで地域の課題の傾向がわかってきたが、地域住民と共有することが十分できていない。安心して住み慣れた地域で暮らしていくために、介護予防や地域での支え合いについて関心を持ってもらう必要がある。 圏域内にマンションが増え、新たに転入してくる住民が多い。転入してきた住民の中には地域とのつながりが乏しく、情報を持っていなかったりインフォーマルな支援を受けにくい人がいる。				
活動方針	支援が必要になったり認知症になったりしても安心して暮らせるように、地域ケア会議や圏域内研修、地域住民向け講座やセンターの周知活動等の機会を通じて、本人を含む地域全体が課題を共有し連携していくことの大切さについて理解を求めていく。 介護予防の大切さについて地域診断で把握した具体的なデータをもとに説明し、身近な問題として考えていただけるような普及啓発活動を行う。				
センター業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> 消費者被害情報について、担当者を決めて毎月インターネット等で情報収集し、センター内で情報共有する。 消費者被害情報について把握した情報の中で特に重要と思われるものについては、広報紙等を通じて地域住民や居宅介護支援事業所等へ周知していく。 認知症サポーター養成講座や住民向け講座を開催する際に、権利擁護についての啓発も合わせて行う。 虐待が疑われるような相談を受け付けた場合は区担当者へ報告し、適切な支援ができるよう連携して対応していく。 		<ul style="list-style-type: none"> 計画を立てていたが実施時期等の具体的な計画を立てることができておらず、結果未実施となったものがあつた。次年度は具体的な時期や手段を決めて目標達成に取り組んでいきたい。 業務チェックシートを作成した結果、それぞれの職種が把握した地域特性やニーズが、センター内で十分に共有されていないことがわかった。センター内でスムーズに共有できる仕組みを構築し、業務に活かせるようにしていく必要がある。 配置職員の増員があるので、センターの総合相談マニュアルとリスクマネジメントマニュアルを活用してセンター内研修を開催し、適切な方法で総合相談の受理・対応ができるように再度職員全員で確認していく。 	
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> 消費者被害情報について、担当者を決めて毎月インターネット等で情報収集し、センター内で情報共有する。 消費者被害情報について把握した情報の中で特に重要と思われるものについては、広報紙等を通じて地域住民や居宅介護支援事業所等へ周知していく。 認知症サポーター養成講座や住民向け講座を開催する際に、権利擁護についての啓発も合わせて行う。 虐待が疑われるような相談を受け付けた場合は区担当者へ報告し、適切な支援ができるよう連携して対応していく。 		<ul style="list-style-type: none"> 啓発活動は随時行っていたが、虐待疑いの通報は数件しかなかった。引き続き啓発活動を継続していきたい。 消費者被害情報をセンター内でのみ把握していたが、被害情報が共有できるように、今後は地域の居宅介護支援事業所等にも情報発信し、広く注意喚起できるようにしていきたい。 新人職員も入ることから、高齢者虐待の対応手順について全職員が適切に対応できるよう、センター内で確認していく必要がある。 虐待疑いの通報を受け事実確認のためサービス利用中に本人の状態を確認しに行こうとしたところ、事業所職員から家族に連絡が入り事実確認を行うことができなかった。事実確認の際には事業所職員に対しても情報を制限する必要があることについて、センター内で再度徹底し、事実確認を行っていることを養護者に知られないようにする方法について話し合った。当センター、区双方とも対応に不十分なところがあったことが情報漏えいの原因となったため、区にも同様の対応を求めた。 	
	包括的・継続的・ケアマネジ	<ul style="list-style-type: none"> 区内の介護支援専門員の研修会の開催（年6回） 圏域内の介護支援専門員の勉強会・事例検討会の開催 圏域内の介護支援専門員のニーズを把握するため、事業所訪問、アンケート調査の実施を行い、ニーズの把握に努める。 圏域内の居宅介護支援事業所向けの広報紙を作成し、配布する。 総合相談から抽出した個別地域ケア会議を開催する必要のある人のリストをもとに、状況を確認をして必要性の高い人から順に地域ケア会議を開催する。 多職種の顔が見える関係づくりを目指し、研修会等を開催する。 		<ul style="list-style-type: none"> 圏域内の事例検討会では圏域内の主任ケアマネジャーがファンリテーター役を努めるなど、地域事業所と協力して開催することができた。交流会や研修会を通じて相談しやすい環境づくりに努めることができた。 主任介護支援専門員の交代に伴い、これまでの計画で実施できなかったことについて再検討し、活動目標を修正していく必要がある。今年度計画していたケアマネジャーからの相談分析が未実施であるため、次年度の早い時期に分析し、ニーズを把握して活動計画に反映させていきたい。 必要に応じて個別の地域ケア会議を開催し、個別課題の解決だけでなく地域課題の把握や関係機関とのネットワークの構築を助めていく必要がある。 地域ケア会議にこだわらず、地域の既存の会議を活用し、関係機関とのネットワークの構築や課題の共有に努め、課題の解決に向けた話し合いの機会を持つていく。 多職種連携会議の開催規模が回を追うごとに大きくなってきているので、今後の開催方法等について他センターや関係機関と話し合っていく必要があると感じている。 	
	介護予防メニュー	<ul style="list-style-type: none"> 総合相談や地域住民から把握した対象者にアプローチし、生活機能の低下の分析を行い、支援ニーズを明らかにする。 介護予防プログラムの教室参加を促す。 		<ul style="list-style-type: none"> 総合相談から介護予防プログラムにつなげられるケースが少なく、総合相談対象者に対しては数名のみしか基本チェックリストを実施できなかった。 老人会での基本チェックリストの実施から介護予防プログラムへの参加につなげることはできたが、普及啓発活動参加者に対して計画的に基本チェックリストを実施することができなかったため、次年度以降は計画的に取り組んでいきたい。 	
	普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度の総合相談結果をもとに介護が必要になった原因について分析し、その結果をもとに老人会に普及啓発にまわる。 転倒による骨折リスクの高い地域で、歩こう会を一つ新設開催する。 閉じこもり予防を目的に、一緒に料理を作って食べる会を開催（年3回予定） 		<ul style="list-style-type: none"> 普及啓発活動を行った時は参加者から直接感想を聞き、次年度以降の参考にできるようにしているが、要望を受けて開催したご飯を作って食べる会が好評に終わり、次年度以降に定期開催していくこととなった。地域住民のボランティア協力も得られたので、今後は参加する側から運営する側にまわってくれる人を探していきたい。 総合相談の際に支援が必要となった原因疾患を聴取し、地域ごとの特性が無いか調べたが、圏域内で大きな差は見られなかった。次年度以降も引き続き情報収集していきたい。 新しく歩こう会を作ることはできなかったが、既存の会は参加人数の増減はあるものの継続することができ、定期的に開催を継続することでいったん休んでもまた参加しやすい雰囲気が出てきていると思われる。新しいコースで歩いたときは参加者から直接感想を聴取し、次年度以降のルート決定の材料としている。 	
	地域活動介護支援	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防活動支援を行っているサークルに対して、年に2回アンケート調査を実施し、ニーズを把握する。その結果をもとに、ニーズに合った支援内容を工夫していく。 		<ul style="list-style-type: none"> 活動支援サークルの参加者に対してニーズの把握に努めたが、希望内容にばらつきがあり具体的な活動支援の変更にはつながらず、結果、住民主体の活動につなげることはできなかった。 元気会では住民主体の活動に徐々に移行することができており、次年度以降はあんしん職員の支援頻度をもっと少なくなる予定である。サークルとして独立していくように引き続き支援していきたい。 	
	その他	<ul style="list-style-type: none"> 認知症サポーター養成講座の開催 圏域内中学校での認知症キッズサポーターの開催 認知症カフェの活動支援 認知症地域支援推進員は行政と連携して活動していく。 		<ul style="list-style-type: none"> 中学校での認知症キッズサポーター養成講座では地域の民生委員、主任児童員の方たちと協力して開催することができ、特に寸劇では民生委員さんたちが参加することで生徒さんたちも興味を持っていただけたのではないかなと思う。次年度も地域の皆さんに協力していただきながら開催することで、地域で支え合う大切さについて理解を求めていきたい。 認知症地域支援推進員として活動し、1年間だけでは解決できない様々な課題を感じることもできた。次年度以降も他センターと協力し、活動に取り組んでいきたい。 	

※人口データは平成28年6月30日現在

平成28年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 千葉寺		
	主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等
	(1) 人	(2) 人	(1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	31,753	
	高齢者人口	7,155	
	高齢化率	22.53%	
担当圏域 地区課題	<p>1. 子世代の流出や集合住宅の増加により、互助関係が縮小し、独居高齢者や高齢者世帯が孤立しつつある。そのため介護が必要な状態になっても気づかれないまま重度化しやすい。</p> <p>2. 各地区には自治会館等の施設はあるが、自治会・老人会の加入者や役員のなり手が少なく、活動が減少している。</p> <p>3. 住民の認知症に対する関心は高まっているが、地域の課題として捉えられていないため支援活動に結びついていない。</p>		
活動方針	<p>1. 関係機関と連携し、実態把握を進め、早期に適切な支援に繋ぐ。</p> <p>2. 地域の諸団体の活動を把握し、ネットワークの構築と活動支援及び人材育成を行う。</p> <p>3. 地域の住民や関係機関に認知症の人の支援について働きかける。</p>		
センター業務	項目	具体的な活動計画	自己評価
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> 週1回のケース検討会議の継続。 見守りが必要な高齢者のマップ作成を継続。 総合相談の内容を分析し、地域課題の把握を行う。 地域課題の把握・解決のために地域ケア会議を開催し、社会資源の開発に繋げる。 地域住民、関係機関、介護サービス事業所等と、地域について話し合う場を設け、顔の見える関係作りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ワンストップの総合相談窓口として、どのような相談も受け止めスクリーニングを行い、週1回のケース会議や三職種での協議を行い、適切な支援につなげることを継続できた。 地域住民・介護サービス事業所等との地域ケア会議を開催し、地域での生活について話し合う機会を持ち、支援ネットワークの構築の一助とした。 今回の地域ケア会議は規模が大きく、地域についての問題意識を持っていただく機会としては良かったが、具体的な地域課題の発見や解決には至らなかったため、今後はより地域に密着した方法や規模を模索したい。
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者虐待等の通報や相談を受けた場合は、速やかに状況を把握し、関係各機関と連携を図り、適切な対応を行う。 権利擁護に関する問題の早期解決の為に、関係各機関との情報交換や情報共有を密に行い、日頃より連携を深める。 権利擁護についての講演会や勉強会の開催・情報提供をする。 地域の認知症への対応力・見守り力アップを目指し、認知症サポーター養成講座を開催する。 認知症キッズサポーターの養成講座を圏域内中学校で開催し、地域での認知症への理解を深めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 関係各機関との連携を日頃から密に図ることで、高齢者虐待等の事案の早期解決に繋がった。 権利擁護についての出前講座や情報提供等を行ったことで、地域での権利擁護についての意識付けや権利擁護に関する相談窓口の周知に繋がった。 認知症サポーター養成講座を地域の自治会や中学生を対象に行い、地域での認知症についての理解を広め、地域住民の認知症についての知識が深まる一助となった。
	包括的・継続的・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> 多職種連携会議や中央区連携会議を開催し、各機関の役割の確認や情報共有を行い、連携を強化する。 個別ケースの地域ケア会議を重ね、関係機関等との連携を強化すると共に地域課題の共有と課題解決策を検討する。 区センター合同での介護支援専門員研修会（年6回：内新人研修1回、事例検討2回）を開催する。 支援困難ケースに対する同行訪問やカンファレンス開催支援、関係機関との連携支援 中央区、主任ケアマネ連絡会として、介護支援専門員の支援体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 多職種連携会議においては、会を重ねるに伴い役割が明確になり連携の深まりを感じる。 今回の地域ケア会議は規模が大きく、地域についての問題意識を持っていただく機会としては良かったが、具体的な地域課題の発見や解決には至らなかったため、今後はより地域に密着した方法や規模を模索したい。 CM研修については医療連携や事例検討に重点を置き、CMのレベルアップにつながっている。 主任CM連絡会では、各々の主任CMが役割を自覚し活動している。
	介護予防ケア	<ul style="list-style-type: none"> 相談のあった高齢者の心身の状況を適切にアセスメントし、その方が自立意欲を持って活動できる場（場合によっては実施する側）につなぐ。 地域の既存団体や各種サークルにて定期的な体力測定会の実施を勧め、自身の身体状況の把握につなげる。 予防給付において、委託事業所が適切な支援を提供できるよう情報提供や支援内容の確認を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の現状を把握し、適切で取り組みやすい事業や制度につながるよう留意した。 シニアリーダー体操を多くの方に知っていただき、末広公民館の参加者増につなげることができた。体操がメインだが、閉じこもりがちの方に対しても効果的であると感じる。 予防給付では、委託事業所と協力し、利用者が適切な支援を受けられるよう努めた。また総合事業開始に向け、単にこれまでのサービスの継続とならないよう支援内容について定期的に正しく評価していただけるよう助言した。
	普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> これまでに出張講座を開催した地域に、今年度も講座開催や講師派遣ができるよう働きかける。 中央区健康課と連携を図り、地域の社協ふれあいいきいきサロンへの講師派遣を行う。 葛城・末広の公民館と、介護予防をテーマにした講座・教室を共催する。 葛城・末広の公民館まつりに参加し、センターの周知とともに介護予防の意識向上を図る。 中央区ふるさと祭りに参加し、センターの周知とともに介護予防の意識向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度まであまり関わりの少なかった稲荷町にて毎月体操教室の開催ができるようになった。回数を重ねるごとにスタッフや参加者との交流も図れ、総合相談につながったケースもあった。より相談しやすいセンターになったのではないと思う。また、その情報を聞き、他地区でも体操に取り組みたいという声も上がっているようなので、そこから集いの場の新規立ち上げを目指したい。 その他サロンへの区健康課との同行訪問は、センターの周知と、地域の方とより親しみやすい関係づくりに役立つとともに、健康課とセンターの情報共有のきっかけになるため、来年度も継続予定である。
	地域活動支援	<ul style="list-style-type: none"> 毎回あんしんケアセンター職員が行かなくても活動が継続できる方法を考えるための情報提供、調整等を行う。 自治会と外部講師が連携を取りやすいよう調整したり、活動継続にあたって情報提供や相談対応を行う。 外部講師の紹介や、体操をするための環境や道具についてのアドバイスをを行い、将来的に住民だけで活動が継続できるよう支援する。 町内会と外部講師が連携を取りやすいよう調整したり、活動継続にあたって情報提供や相談対応を行う。 ハーモニープラザやその他地域の既存団体について現状を把握するとともに、地域住民に対し社会資源の一つとしての活用を促す。 千葉寺県営住宅にて新規の介護予防教室の立ち上げ支援。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して『元気かい？』の活動を支援してきたが、少しずつではあるものの参加者の自主性を高められるよう他センターと調整・協力して指導にあたった。成果として、会場予約と準備は参加者のみで実施できるようになった。ちばしいいきいき体操のDVD操作も戸惑いながらもスタッフが不在でも行えている。それでもスタッフに来てほしいという希望も強い中、さらに自主性を高められるよう支援内容をセンター間で工夫・調整する必要があると思われる。 圏域内のシニアリーダー体操教室の立ち上げが思った以上に少なかった。リーダーはいるものの、圏域外の、設備が整っていたり通いやすい会場への参加が目立つ。公民館での立ち上げはだいぶ進んでいるようなので、今後は自治会館など、より地域に密着した会場での立ち上げを支援したい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 地域の行事に参加し、顔の見える関係づくりをする。 広報紙を自治会掲示板に貼らせていただき、あんしんケアセンターの活動を周知する。 サービス調整や予防プランの委託において公正・中立な選択をする。 管理台帳を作成し管理を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も地域の行事等に参加して、あんしんの周知に努めたい。 公的な機関として公正・中立に業務を行っている。 個人情報については適切な管理を行っている。 	

※人口データは平成28年6月30日現在

平成28年度千葉市あんしんケアセンター運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 松ヶ丘		主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等
			(2) 人	(1) 人	(1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	38,599			
	高齢者人口	10,223			
	高齢化率	26.49%			
担当圏域 地区課題	高齢独居世帯や高齢夫婦世帯などが多い。経済的困窮、精神障害の方や高齢の親とその子との二人暮らし世帯も増えてきている。地域の中で馴染めずに暮らしている方の繋がる方法、場所が必要になっている。 地区社協、民生委員等の活動が活発な地区とそうではない地区や昔からお互い助け合って生活している地域とがある。				
活動方針	地域包括ケアシステム構築に向けて、地域との連携・協働を更にすすめていく。個別の相談支援、地域ケア会議の開催を通じて、地域の実態把握、関係機関との連携、ネットワークを強化し、地域の実情に合わせた支援に取り組んでいく。				
センター業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> ・多種多様な相談に全て対応し、スクリーニング、課題の明確化に努め、関係機関との連携を図り、適切な機関・サービスに繋げていく。 ・三職種でケース会議の開催をして、支援・対応方法を深めていく。 ・地域の中の活動への参加、講演会の開催、研修会への参加等を積極的に行い、ネットワークの形成・強化を図る。 ・地域ケア会議の開催を増やし、連携強化、資源開発をすすめていく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・総合相談では、各職種間、行政、関係機関と連携しながら対応することができた。また、毎月開催のセンター内のミーティングで終了していないケースの場合、三職種で評価、継続の場合、今後の支援方法についても検討した。 ・個別の地域ケア会議を開催することはできたが、地域課題へと発展させることができなかった。 ・独居の認知症高齢者の支援で認知症初期集中支援をはじめとする医療機関、事業所等と連携しながら対応することができた。サービス利用につながらない場合は、定期的な訪問で状況確認している。 ・総合相談より、各地区毎のデータを作成。今後は地域特性や相談内容の傾向をデータ化し、地域ケア会議や社会資源の開発に生かしていきたい。 	
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者虐待防止対応、権利擁護、成年後見制度、認知症の方への支援について、更に理解を深めるため、日々の業務、研修会等で学んでいく。 ・地域住民への啓発活動、パンフレット配布、掲示、制度等の周知活動を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・虐待という慎重さが求められるケースでは、行政との連携、複数対応、毎月の評価、見直しを心がけてきた。 ・権利擁護の普及、啓発活動の面で一般住民に周知活動を行う場面が少なかったため、今後は増やしていきたい。 ・成年後見では、申し立てが必要だと思われるケースの場合、センター内で協議、行政に相談しながら対応することができた。 ・積極的に研修に参加し、必要な知識、情報の取得に努めている。 	
	包括的 ネットワーク 継続的 ケアマネ	<ul style="list-style-type: none"> ・区内センター合同で5月に新人向け研修会、他に年3回程度の合同研修会を開催。年2～3回、事例検討会等を開催し地域のケアマネに対して情報提供と資質向上をはかる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・中央区、南部圏域で計画していた研修会、事例検討会は計画通り開催することが出来た。 ・地域ケア会議については、個別課題で4ケースの会議を開催している。地域課題の地域ケア会議の開催は出来ていない。 ・支援困難ケースへの対応として、ケアマネジャー、サービス提供事業所、行政、地域の組織等と連携を図りながら対応させていただいた。 ・圏域内の居宅介護支援事業所を訪問することは出来なかった。 ・次年度は、圏域内での連携、ネットワーク強化、情報共有等に勤められるよう、事例検討会の開催、地域ケア会議の開催に向けてすすめ、地域包括ケアシステムの構築に繋げていく。 	
	介護予防 マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な介護予防プラン作成が出来る様にケアマネジャーと日頃から連携を取りながら意見欄の記入を行う。 ・介護予防ケアプランの質の向上をはかる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・予防ケアプランの包括意見のコメントを記入することで、プランの質の向上につなげていると考えている。 ・地域資源の圃場(ほじょう)を介護予防プランに反映し、自立支援できるように、委託事業所への社会資源情報の提供等、連携を図ることが出来た。 	
	普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・センター主催の介護予防教室の開催。 ・クラフト教室の継続。 ・サロンや介護予防教室参加、基本チェックリストの実施。 ・高齢者の交流の場の提供。 ・中央区保健福祉センター健康課と協働して、いきいき体操の普及に努める。 		<ul style="list-style-type: none"> ・体操教室や介護予防教室を開催することで健康意識の向上を図り、介護予防に繋げていただいている。サロンや地域活動に参加して、顔の見える関係作りをすることが出来ている。 ・地域や大学での認知症サポーター養成講座、中学校での認知症キッズサポーター養成講座を開催し、特に若い世代の認知症への理解、協力を得るよう、働きかけた。 ・クラフト教室の定期開催により、地域の皆様の集いの場を提供し、情報提供、閉じこもり防止、仲間づくりが出来ている。 ・千葉市消費生活センターや社会福祉協議会とも連携して、消費者被害、成年後見制度などの講座開催で介護予防普及啓発に役立てていただいた。 	
	地域介護 支援予防	<ul style="list-style-type: none"> ・いきいきサロンや地域活動に参加し連携を図っていく。 ・星久喜町南部町会カフェの自主運営移行の手伝い。 ・各地域でのサロンなど自主活動運営に向けての支援。 ・シニアリーダーや地域のリーダーの発掘と育成。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方の意向を受け、さくら会が立ち上がり、自主運営組織による高齢者の交流の場が出来た。中央区健康課との協働でいきいき百歳体操を行い、健康意識の向上に役立てていただいている。 ・星久喜民生委員が主となり、星久喜町南部町会カフェが2年目を迎え、中央区健康課、いきいきプラザ、大学、町内のアコーディオン奏者の方も積極的にボランティアとして参加していただいております。様々なつながりやネットワーク作りをしながら介護予防、集いの場となっている。 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・居宅介護支援事業所やサービス提供事業所ほか関係機関との連携、相談支援について公正中立の視点を念頭に取り組んでいく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・公正・中立の立場であることを意識しながら業務に取り組んでいる。 ・個人情報の取扱いは慎重に行っている。書棚は施錠し、持ち出し簿を活用している。電子媒体には情報セキュリティ対策をしている。 ・三職種が情報共有できるよう、毎朝のミーティング、毎月の定例会、状況に合わせたケース会議等にてチームとして活動できるようにしている。 ・職員の資質向上のために、計画的に研修会に参加できている。 		

※人口データは平成28年6月30日現在

平成28年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 蘇我		主任介護支援専門員 (1) 人	社会福祉士 (2) 人	保健師等 (2) 人
	担当圏域	圏域人口	52,172		
担当圏域 地区概況	高年齢者人口	11,323			
	高齢化率	21.70%			
担当圏域 地区課題	圏域には、JR蘇我駅・浜野駅を有しており、駅近隣では人口増加が見られ、高齢化率も低くなっているが、古くからの住宅地では高齢者世帯・独居世帯が増えている。それに連動するように（老・老介護）や（認・認介護）といった相談や認知症による徘徊やセルフネグレクトによるゴミ屋敷といった困難事例の相談が増えている。蘇我地区は、JFEを中心に「鉄の町」として栄えてきた地域であり、相談対象者の多くがJFE関連事業で就労された地方出身者で、雇用形態の違いによる収入格差が大きく、低所得者の支援に課題がある。人口増加に伴い犯罪増加が見られ、また、町内自治会の未加入世帯も増えており、見守り体制構築が課題となっている。民児協・地区社協・あんしんケアセンターの区割りも全て違うため、関係機関との連携方法にも課題が残る。生浜地区は主産業が農業であったことから、国民年金受給のみの低所得者層や高齢者世帯が多い。介護は家族がするものといった考えが残っておりサービス利用に対しても閉鎖的である。また、徒歩圏内に大型スーパーや病院等が少なく、買い物や受診といった生活に密着した課題も多い。全体的には、家族支援も視野に入れた精神疾患の相談が増えている。				
活動方針	高齢者が住み慣れた地域でできる限り元気で生きがい・尊厳のある暮らしを継続できるよう、その人の状態に応じて、医療・介護・予防・住まい及び生活支援サービスを継続して提供する「地域包括ケアシステム」の構築を推進するために、関係機関との連携を図り、多職種協働で取り組んでいく。民生委員・町内自治会・地区社協に積極的働きかけ、身近な相談窓口としてのあんしんケアセンターの周知活動を実施する。				
センター業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員や地区社協等の地域の支援者へ定期的に働きかけるほか、町内自治会単位でのあんしんケアセンターの周知活動を実施し、地域になくはない存在として地域包括ケアシステムの構築を推進する。 民生委員の定例会や老人会等に積極的に参加する。また、地区社協の活動を理解し協力することで、支援の必要な高齢者を早期発見し、適切な支援に繋げていく。 地域活動では、地域の社会資源についての情報収集を実施する。 総合相談の内容を町名別にグラフ化して地域診断を実施する。民生委員、地区社協及び町内自治会等へ周知活動を進め、共同して地域課題に取り組んでいく。 		<ul style="list-style-type: none"> センターに寄せられた相談に対しては、相談の主訴を見極めつつ、相談内容に応じて三職種協働で支援にあたった。民生委員や社協地区部会、町内自治会や老人会等との連携も進み、早い段階での相談が多く入るようになった。 多職種連携会議や中央区介護支援専門員研修会等で医療機関との関係性の構築も進んでいる。特に近隣の病院や診療所・薬局には毎年挨拶回りを実施しているため、日常生活に支援が必要と思われる患者さんについての連絡を多く頂いた。 駅前というセンターの立地条件を活かし、会議室を活用した介護予防教室を開催することで、センターの周知活動にも繋がった。回覧板や掲示板を活用することで、地域住民にも場所を覚えていただき、来所相談の件数増加にも繋がった。 生浜地区部会が活動計画として掲げている、「支えあい安心して暮らせる中央区」を推進するため、生浜地区地域福祉連携会議（地域ケア会議）にて、課題抽出のための勉強会の開催方法等を検討した。勉強会当日は、高齢福祉事業所だけでなく、障害福祉事業所にも参加していただくことで、地域包括ケアシステム構築の基盤づくりに繋がっていると感じている。 蘇我地区、生浜地区、白旗一丁目自治会で継続開催している地域ケア会議は、それぞれの地域特性に応じた議題を設定し、地域住民と共に地域について考える機会となっている。 	
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者虐待の相談窓口の周知を図るため、圏域内の居宅介護支援事業及びサービス事業所向けの「高齢者虐待防止研修」を実施し、早期発見、予防に繋げる。 消費生活センターと連携し、消費者被害のチラシ配布や講演会等で普及啓発活動を実施する。 千葉市成年後見センターと連携し、成年後見制度や日常生活自立支援事業の普及啓発活動に努める。 認知症の正しい理解を深めるため認知症サポーター養成講座を開催する。 「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」を実現するために、地域ケア会議等で定期的に検討する。 		<ul style="list-style-type: none"> 「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」を推進するきっかけ作りとして蘇我地区認知症徘徊声かけ訓練を実施することができた。蘇我地区地域ケア会議で検討していたことが、地域住民にも見える形で開催できたことは、評価したい。会議参加者だけでなく、中学生や地域住民、地域のサービス事業所が参加してくれたことは、今後の地域作りにも繋がっていると感じている。 生浜中学校、蘇我中学校の中学1年生を対象としたキッズサポーター養成講座を開催し、認知症への理解を深めることができた。また、蘇我中学校では、徘徊声かけ訓練にも、中学生がボランティアで積極的に参加してくれた。 高齢者虐待防止のため、居宅支援事業所とサービス事業所に向けて研修を毎年継続開催している。昨年度までは、高齢者虐待の早期発見・早期対応で虐待を防止していくという内容であったが、今年度は「（養介護従事者等）が虐待者にならないように」という違った観点からの研修とした。高齢者の権利擁護を改めて考える機会となっているため、今後も内容を検討し、継続開催していきたい。 消費者被害について、消費サポーター養成講座を受講し、消費者被害について学ぶことができた。地域で消費者被害について、講演を行い、普及啓発することができた。今後も、消費生活センターと連携し、消費者被害について普及啓発を行っていく。 成年後見制度の普及啓発の機会が少なかったため、来年度の課題としたい。 	
	包括的・継続的・メンタル・ケアマネジ	<ul style="list-style-type: none"> 蘇我地区、生浜地区、白旗一丁目自治会の地域ケア会議を継続開催し、様々な関係機関との連携を深め、地域包括ケアシステムの構築を推進する。 中央区介護支援専門員研修会を年3回、新人CM育成研修会を年1回、中央区事例検討会を年2回（中央区合同）開催する。 中央区南部圏域を対象とした勉強会・交流会を年2回開催する。 担当圏域の居宅介護支援事業所への個別訪問を継続し、情報交換・意見交換を実施する。 中央区主任ケアマネ連絡会の運営を後方支援する。 地域の介護支援専門員に対する多職種協働による個別支援の実施し、状況に応じて個別地域ケア会議を開催する。 		<ul style="list-style-type: none"> 毎年恒例の圏域居宅介護支援事業所の個別訪問を継続実施した。事業所との信頼関係が深まり、センターとしても、事業所や地域の状況を聞き取るいい機会となった。あんしんから直接事業所へ赴くという機会がほとんどないため、毎年好評を得ている。あんしんケアセンター増設に伴い、今年度で訪問が最後となる事業所からはこのような機会がなくなるのが残念との声もあがっている。生浜圏域においても継続して実施していきたい。 中央区主任ケアマネ連絡会では地域のケアマネに還元できる活動を目的とし、新人育成マニュアル（計画書編）、社会資源繋がりがガイドブックを冊子として配布した。地域のケアマネの悩みや実際に即したテーマでもあり大変有意義な活動であると考えている。主任ケアマネにとっても個々では難しい活動も、組織として活動することで地域のケアマネに還元しているという実感もあり、中央区全体のスキルアップに繋がる活動となっており、大変評価している。今後も後方支援していきたい。 事例検討会への苦手意識が強く、事例提供者を募っても応募がない現状があったため、事例検討会を開催する意義を中央区全体の事例検討会(2回)で学んだ。ケアマネの意識改革を実施したことは今後の活動に繋がると考える。 個別相談では、ケース内容を一緒に整理し必要に応じて個別地域ケア会議を開催しているが、地域課題抽出に繋がるほどの開催数が行えていない。今後の課題として個別地域ケア会議を定期開催し、地域課題の抽出・ケアマネの対応力向上を目的としたものに繋げていきたい。 	
	介護予防メンケ	<ul style="list-style-type: none"> 外部研修への参加や内部研修を実施して、アセスメント能力の向上を図り、自立支援を目標としたケアマネジメントを実施する。 センター作成プランについては、セルフチェックを行い、内部監査を実施して、目標設定について確認していく。 月2回のコメント直接受付日を設け、委託先の介護支援専門員との顔の見える関係性を構築し、直接プラン内容を確認し、適切な支援が出来るように助言する。 地域活動の際には基本チェックリストを活用してアセスメントを行い、二次予防対象者の洗い出しを実施して、必要な事業へ繋ぐことで心身の状態悪化を防いでいく。 		<ul style="list-style-type: none"> 介護予防・日常生活支援総合事業移行に向けて、自立支援型ケアマネジメントを実践すべく、外部研修に積極的に参加し、センター内での情報共有に努めた。内部研修では、「課題総括表」の活用や、ICFの視点について改めて学び、職員の資質向上に努めた。自立支援型ケアマネジメントを実践していけるように努めていきたい。 コメント受付日を廃止して可能な限りその場で対応するようにしたことにより、毎月約半数のプランをその場で返却することができ、委託先及びセンターの業務の効率化に繋がっていると考える。ただ、事前連絡なく来所される事業所も多く、プランの内容をじっくり確認する時間がなく、担当者からケアマネへの情報収集及び助言等が十分でないことが課題であるため、来年度の課題としたい。 地域の集いの場などでチェックリストを活用し、二次予防事業参加に繋がることが出来た。しかし、総合相談の場面でのチェックリスト実施には至らなかった。 住民主体には積極的に参加し、教室や講座の際に情報提供へ繋ぐことは出来たが、インフォーマルサービスについての情報収集やまとめまで至らなかった。来年度は生活支援コーディネーターとも連携し、情報収集に努めたい。 	
	普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> 公民館などを利用したセンター主催の介護予防教室を年3回開催し、センターのPRおよび介護予防に関する普及啓発を行い、地域でのネットワーク構築につなげる。 町内会、老人会等の地域団体を対象とした介護予防教室を年間8回実施し、センターのPR、既存団体とのネットワーク構築につなげる。 センターの会議室を利用した介護予防教室を実施し、地域に集いの場、交流の場を提供する。 介護予防、健康に関する広報誌を作成し、情報発信のツールとする。 		<ul style="list-style-type: none"> 昨年度までは、公民館と蘇我いきいきセンターを会場として介護予防教室を開催していたが、今年度は南部青少年センターも活用した。隣接する公園で実施しているラジオ体操の測定会の会場として利用することで、定期的に連携を図る機会が増え、新たなネットワークの構築に繋がることができた。 介護予防教室開催に当たっては、センターから町内自治会に働きかけることが多かったが、今年度は老人会や婦人部会から依頼を受けて、介護予防教室を開催する機会が増えた。今までの活動の成果とあんしんケアセンター周知活動が実を結んだこと、どんな依頼も積極的に受けていたことが成果に繋がったと思われる。 会議室が出来たことにより、集いの場と介護予防の活動の場として定期的に教室を開催することが出来た。教室に参加する中で、家族や親族のことで相談を受けたり、参加者同士の繋がりが出来て会話を楽しむ姿も見られた。活動を通じて外出する機会や交流の場を提供する機会に繋がることが出来たことは評価したい。今後もセンターを会場とした介護予防教室を検討したい。 昨年度から開始したラジオ体操は定着しており、体操前後に参加者同士が話をしている姿が毎回見られ、互助による見守り活動に繋がっている。また、今年度2回実施した測定会は好評で、日常生活の中で自主的に体を動かすようになった参加者もあり、ラジオ体操へ参加継続と介護予防の意識作りにも繋がった。 	
地域介護支援	<ul style="list-style-type: none"> いきいきサロンや地域参加事業への参加を継続し、関係機関との連携を図り、活動支援を行う。 いきいき百歳体操の体験教室を開催し、住民主体で地域で実践できる介護予防の具体的な提案を行い、継続的に活動して行くように支援する。 住民主体の地域活動について情報収集を行い、通いの場の拡大と継続に向けて、後方支援を実施する。 		<ul style="list-style-type: none"> いきいきサロンの参加を継続したことにより顔の見える関係性が構築され、相談に繋がるケースも増えてきている。来年度はセンターからの情報発信の時間を定例化することで了承を得られたため、関係機関との連携を深めて、積極的に介護予防を推進していきたい。 白旗一丁目地域支援事業は、実質的に健康課、あんしんケアセンター中心の運営となっている。高齢化の非常に進んだ地域であり、今後も集いの場が必要と思われる。来年度は圏域外となる地域であるが、地域住民で運営可能な方法を模索し、継続することを期待したい。 いきいき百歳体操は、当初の予想を大きく超える申し込みがあり、集いの場や体操に対するニーズが高いことが伺えた。開催当初より自主化に向けての声掛けを少しずつ行っていくことで、終了後も住民主体の活動に繋がった。しかし、あんしん蘇我の閉鎖後、継続の希望があるが開催場所に苦慮している。今後は集いの場を開催する場所についても情報収集を行っていく必要がある。 公民館のシニアリーダー体操は、決定から初回開催まで日数が少なく回覧板による周知は間に合わなかったため、集いの場で直接広報を行うことで多数の参加者を集めることができた。今後も広報活動などで積極的に協力し、地域に根付いた活動になるよう支援を行っていきたい。また、新たな集いの場についても引き続き情報収集を行い、積極的に後方支援を行いネットワークの構築を図っていききたい。 		
その他	<ul style="list-style-type: none"> 運営会議にてサービス利用に偏りがないか、公正・中立性について検証する。 町内自治会単位での講演会等を積極的に開催し、あんしんケアセンターの役割について周知する。 利用者アンケートを実施し、結果を反映させた内部研修を実施し、質の向上を目指す。 		<ul style="list-style-type: none"> 委託先の情報収集に努め、選別根拠等をしっかりとして視覚的に捉え、運営会議にて検証することで公正・中立性について確保することが出来た。 内部研修で接遇研修を実施し、相談援助に携わる職員としての資質向上を図った。 中央区民生委員・児童委員協議会の全体研修や中央区支えあいのまち推進協議会、ことばき大学からの依頼を受け、当センターの活動とあんしんケアセンターの役割について発表する機会をいただき周知活動を実践することが出来た。今後も地域との連携を強化し、地域包括ケアシステムを推進していけるように努めていきたい。 		

※人口データは平成28年6月30日現在

平成28年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター こてはし台		主任介護支援専門員 (1) 人	社会福祉士 (2) 人	保健師等 (1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	28,564			
	高齢者人口	9,485			
	高齢化率	33.21%			
担当圏域 地区課題	高齢化率が高い地域であり、単身や高齢者のみの世帯割合も多い。また地域の支援者側も高齢化が進んでいる。				
活動方針	民生委員や町内自治会、老人会、ボランティア、社会福祉協議会等との連携を図りながら、まだ活動が不十分な地域で介護予防支援等の普及活動を行っていく。				
センター 業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> 地域の催し、会議等に積極的に参加、特にまだ活動が少ない地域での活動を強化していく。地域から得た情報を整理し、課題に繋げていく。 保健福祉連携会議の参加者を広げ、内容を充実させながら継続していく。必要なケースは地域ケア会議を開催し地域も含め連携を図っていく。 多職種連携会議で医療関係機関やケアマネ等事業所からの事例提供をしてもらおう等、参加者の幅を広げ、内容を充実させ医療と介護の連携が取りやすいようにしていく。 医療機関等の研修・交流会等に参加し顔の見える関係をつくっていく。 		<ul style="list-style-type: none"> 既存の催しや会議等には積極的に参加できており、地域の相談窓口として安定した活動が出来ている。また、各関係機関との連携を図る為の会議等も定期的で開催されている。 また、こてはし台地区での地域ケア会議を開催することができた。その後、ボランティアの会、オリーブの会、地区社協等との話し合いにつながり新しいネットワークが出来た。今後の継続性を検討する必要がある。 個別の地域ケア会議については、開催できていない。常に個別ケア会議を意識した相談対応を心がけていく。 	
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> 地域の催しや会議等に参加し、地域の現状と問題点を整理していく。そして認知症サポーター養成講座の他、地域の実状にあったミニ講座等を実施していく。 地域の介護サービス事業所等向けに広報誌を配布し、早期発見につながるようにしていく。 職員のスキルアップを図るための内部研修を行っていく。 		<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉士会議にて権利擁護の研修会を企画し、CM向けに消費者被害の研修会を実施。センターとしても地域状況に合わせ、権利擁護のミニ講座を開催出来ている。 また、来期は小学生を対象とした認知症サポーター養成講座の開催を予定しており、2校に相談している。 	
	ケア包括的 ネットワーク 継続的 ト	<ul style="list-style-type: none"> 合同連絡会等で医療関係機関等を含めた研修会を開催し医療と連携の取りやすい体制を構築していく。また、話をする機会も設け、ケアマネ同士のネットワークの強化を図っていく。 総合事業での役割を理解してもらえる様、研修等を実施する。 		<ul style="list-style-type: none"> 主任ケアマネの会やケアマネの会で研修会を継続して開催できている。内容も認知症や精神疾患に関するもので多くのケアマネに参加して頂くことが出来た。 合同連絡会について予定通り3回開催され、個々のレベルアップにつながっている。また、3回目の合同連絡会は修了証を発行できる時間枠に設定し、ケアマネの研修意欲向上につなげた。 総合事業はセンター内での情報整理に留まり、ケアマネ向けの研修会にはつなげられなかった。 	
	介護予防 ケア	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員、自治会、老人会、ボランティア、社会福祉協議会等に協力を得て、地域の集まる場所やお茶会等の実態をつかみ、シニアリーダー体操等状況に合わせた内容を実施していく。 		<ul style="list-style-type: none"> 前半は活動が停滞気味であった。後半は保健師の定着もあり、いきいきプラザのフェスタを中心に基本チェックリストから2次予防教室につなげる等、進展が見られている。 「虹の会」では完全自主化に移行し目標を達成している。「はつらつ元気教室」は自主化に至っていないが、今後も自主化に向け支援していきたい。 	
	普及 啓発	<ul style="list-style-type: none"> あんしん事務所前での血圧・握力測定を継続し、相談等も含め充実させ周知活動を行っていく。 民生委員、自治会、老人会、ボランティア、社会福祉協議会等の協力を得て、地域の集会所等を見つけ、あんしんやシニアリーダー等が活動できる場所を見つけ、活動を進めて行く。 		<ul style="list-style-type: none"> シニアリーダー連絡会に継続参加し関係作りを強化出来ている。また区民祭りにて活動協力を頂き体操教室を開催出来た。今後もシニアリーダーの活動の場を見つけていく事が必要である。 地域に向けてはサロン等の集まりに積極的に参加できており、各種ミニ講座を開催し介護予防に対する意識を高めてもらっている。関わりの薄い地域に対しても、自治会、民生委員、生活支援コーディネーター等からの情報提供や協力により、新たな活動場所を開拓していきたい。 	
地域 活動 介護 支援 予防	<ul style="list-style-type: none"> 「虹の会」「はつらつ元気教室」の自主的活動の定期的な見守り。 ボランティアの会やお元気確認事業の定例会に参加し、実態を把握しサポートが必要なケースは対応する。 総合事業の学習を行い、生活支援コーディネーターとも協力し地域への広報活動をしていく。 		<ul style="list-style-type: none"> 地域の集まり等での出前講座や認知症サポーター養成講座など継続的に実施できている。介護予防活動の体操教室も定期的な見守りが継続できている。また、区と協力しわくわくヘルスアップこてはし台も開催できた。 地域のボランティアの会やお元気確認事業とも関わりを継続できている。今後も地域の介護予防の活動支援にあたっていきたい。 		
その他	サービス事業所等の最新情報を把握し、相談者がサービスを選択できる様にしていく。		公正中立な立場で対応している。今後も相談者自身が選択できる様に対応を継続していく。		

※人口データは平成28年6月30日現在

平成28年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 花見川		
	主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等
	(2) 人	(2) 人	(1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	32,452	
	高齢者人口	11,223	
	高齢化率	34.58%	
担当圏域 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代の減少と共に高齢者人口、高齢化率が年々上昇傾向にあり、地域の担い手も高齢化するなか、近隣の人が相互に見守りや声を掛け合うことも困難をきたしている。 ・単身世帯や独居高齢者も多く、地域の情報等が何も周知できないまま孤立しがちな人々の増加に繋がっている。 ・認知症等による近隣トラブルの問題や、経済的な問題等、課題が混在している相談内容の増加がみられる。 		
活動方針	高齢になってもその人らしい生活を継続し、できる限り元気で、生きがい・尊厳のある暮らしをすることができるよう、地域の特性やその実態に応じた機能を発揮し、地域包括ケアシステムの構築・推進を図る。		
センター業務	項目	具体的な活動計画	自己評価
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民との触れ合いの機会を増やすと共に、民生委員、自治会、地区社協等関係機関との連携の維持拡大を図るため、地域行事への顔出しや会議等の開催案内に向けて積極的に参加できる体制とする。 ・相談者への適切な支援と継続的な見守りを行う。 ・必要な情報の収集、整備に努め、地域包括支援ネットワーク構築視点での協議、検討が可能となる体制とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域そのものや住民の集い等への新規参入を意識掛けての活動実践を着々と踏み始めた年度としての実感を得た。特に、これまで関係性の乏しかった地域や関係団体等との顔繋ぎによる新たな関係づくりに向けては、今後の「まちづくり」への視点を忘れることなく、積極性をもって臨むことができた。 ・相談実務における職員の対応力の経験差があるなか、複雑化一途の相談内容の状況下においては、個々職員の力量向上を伴えたセンター機能そのものとしての力量底上げの必要性は引き続き課題となっている。
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> ・「認知症サポーター養成講座」を積極的に開催し、地域のサポート力の拡張を図る。 ・消費者被害等に関する地域情報を把握すると共に、意識掛けての啓発活動に向ける。 ・介護支援専門員への連動化を図るべく「虐待防止研修」の会設定に向け、発見や通報、相談等を受けた際は、市との連携において適切な対応をとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度企画とした地域住民を巻き込んだ「声掛け見守り訓練」を、多くの機関や事業者等の協力を得ながら実施できたことの成果は大きい。 ・権利擁護事業としては、これまでにその啓発機会の乏しかった「消費者被害」の防止に向けた講座を開催したところ好評であり、今後の地域住民に向けた意識啓発の突破口としたい。虐待ケース支援については、今年度、数多くの情報協力があったが、区担当者との連携をその都度図りながら、そのすべてに応えることができた。
	包括的・継続的・ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・区内専門職会の機能も高めつつ、関係機関との定例会におけるテーマ内容のより一層の充実化を目指す。 ・地域ケア会議の必要性を見極めながら適宜での開催に向け、その意義確認を図っていく。 ・「多職種連携会議」の定期開催を維持する。 ・介護支援専門員の連絡会（研修会）等の開催や活動支援を行うにおいて、介護支援専門員同士、及び「あんしんケアセンター」との連携強化に向ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議開催を発信するよう相互に意識すると年度初めに申し合わせていたが、結果は個別ケースを通じた3回のみとなった。実践例を通して開催意義の共有化をさらに図りたい。 ・区内センター合同の企画による連絡会（研修会）や多職種連携会議の開催等を通して、関係性構築を図ることの意義は大きいですが、今後は、担当者個人の範囲での人脈に留めず、関係機関とのネットワークを構築したい。
	介護予防	<ul style="list-style-type: none"> ・状態把握の必要性やリスク度に応じた適切なアセスメント、及びモニタリング継続の維持を図る。 ・課題分析に基づいた適切なサービスの導入等、自立支援を基本としての制度や社会資源への繋ぎ支援とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援や介護予防を基本とする視点を相互確認しながら、適切なアセスメント及びモニタリング対応を行ってきた。 ・社会資源とする資料等の随時更新を行うことで、制度外資源の情報集約の必要性を再確認させられた。また、それら高齢者に関する情報周知のみに留まらないことも実感した。
	普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・基本チェックリスト、及び介護予防の必要性理解に向けながらの適切なアセスメントを実施し、介護予防教室等への参加を促す。 ・地域のサロンや高齢者の集いにおいて、介護予防やセルフケアの普及啓発を引き続き行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チェックリストの活用機会は増やしたが、個々の事例として予防事業への参加誘導の実績にはあまりつながらなかった。 ・なお、地域のサロンや高齢者の集い等への参加を継続しつつ、新規参入地域においても一連の普及啓発活動を行えたことは、今後の地域アプローチへの意欲に繋げられるものとなっている。 ・今期依頼を受けて講演会を行ったが、センター機能の周知と共に、幅広い地域住民の方々に向けた介護予防普及啓発の一つの機会として、貴重な場と理解するに至った。
	地域活動介護予防	<ul style="list-style-type: none"> ・個々人のセルフケア意識の高まりが図られるための啓発活動を推進する。 ・介護予防についての講座や新規の体操教室開催に向ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度、シニアリーダー養成講座修了者による自主活動開催への継続支援は大きな成果となった。 ・地域のイベント会場では地域住民に向けた周知へと発展させることができ、今後の期待に向けられている。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・センター内における諸情報の更新、及びそれらの共有化を図りつつ、特定のサービス事業者や特定の種類に偏ることがないように留意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉市からの受託事業として、常に、公正・中立・透明性の確保維持を基本での運営としてきた。

※人口データは平成28年6月30日現在

平成28年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 花園		主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等
			(2) 人	(2) 人	(2) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	50,413			
	高齢者人口	13,869			
	高齢化率	27.51%			
担当圏域 地区課題	人口5万人超、高齢者人口も13,000人を超えて、予防プラン数も460件以上あります。大規模団地が3つあり、高齢化、孤立化が目立っています。				
活動方針	高齢者人口の増加に伴い28年度は常勤・3職種を6人配置。人員が大きく入れ替わりますが、これまでのセンターの活動を引き継ぎ広げられるよう、地域住民や関係機関とのつながりを大事にして、安心して住み続けられるまちづくり（地域包括ケアシステム）に貢献します。				
センター業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> 初回訪問は複数で訪問していきたい。 地域ケア会議を積極的に行う。 毎月の相談件数等から特徴を掴み地域づくりに活かす。 区保健福祉センターと定期的な事例検討を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> 年度を通じて、初回訪問はケースの状況に応じ、できるだけ複数で行った。 所内会議で毎月、相談件数や傾向の確認、共有と事例検討を行い、地域の把握に努めた。 継続フォローが必要なケースのリストを毎月更新し、3職種での検討、アウトリーチや新設のセンターへの引き継ぎに活かした。 花見川区保健福祉連携会議や地域ケア会議での事例検討を通して、今後の支援をする上でのより良い連携につながった。 民児協、地域事業所懇談会、ふれあいひろば、地域のケアラズカフェ等に参加し、センターの周知、地域の実情の把握、相談活動に努めた。 	
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> 初回訪問は複数で訪問していきたい。 地域ケア会議を積極的に行う。 毎月の相談件数等から特徴を掴み地域づくりに活かす。 区保健福祉センターと定期的な事例検討を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> 年度を通じてあんしんケアセンター幕張と合同で認知症カフェをほぼ毎月開催し、その他の担当圏域の認知症カフェの運営にも協力、参加を続けた。 担当圏域内の様々な団体を対象に認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の方に対する正しい理解を広めた。 虐待事例は全職員で情報や経過を共有、3職種で対応を検討し、迅速に区高齢障害支援課、関係機関と連携して対応をした。 千葉市みかんの会に参加し、認知症カフェマップづくりや認知症カフェ交流会に取り組んだ。 	
	ケ包 ア括 マ的 ネ・ ジ継 メ続 ン的 ト・	<ul style="list-style-type: none"> 多職種連携会議、主任CMの会、CMのつどい等を継続、発展させる。 積極的に地域ケア会議を開催する。 地域住民とともに地域資源マップづくりに取り組む。 		<ul style="list-style-type: none"> アンケートにて意向を確認しながら、地域のケアマネ同士や多職種間で共に学ぶ機会を持ち、自分と違う職種の視点を学んだり、学びを通して地域の中でのネットワーク作りや地域に共通した課題を考える機会を持つ事が出来た。4月よりあんしんケアセンターが4センターから6センターに増えることもあり、今後は地域の範囲をもう少し狭めて、活動していけたらと考えている。 	
	マ介 ネ護 ジ予 メ防 メケ トア	<ul style="list-style-type: none"> おしゃべり昼食会、認知症カフェ等を継続、発展させる。 いつでも相談できる場所としてセンター活動を発展させる。 地域資源マップを作成する。 		<ul style="list-style-type: none"> 日常生活支援総合事業への移行に向け、各職員も千葉市が行う説明会や研修に積極的に参加するようにしていた。地域の方にお知らせできることは、花見川区のあんしんケアセンターの増設なども含めて、おしゃべり昼食会等でも説明を行ってきた。 日常生活支援総合事業のことなどは、まだまだセンター職員も理解ができていない部分が多いため、今後もセンター内でも学習会などを開くことを検討している。 	
	普介 及護 啓予 発防	<ul style="list-style-type: none"> 健康課や生活支援コーディネーターと連携を図り、情報共有する。 おしゃべり昼食会、元気で長生きしよう会等でセルフマネジメントの手法を普及する。 		<ul style="list-style-type: none"> さつきが丘いきいきセンターのイベントや老人会でチェックリストを実施した。元気アップ教室への参加は3名であった。 健康課、ヘルスメイトとの連携が進んだ。2か所の老人会に初めて参加させていただき介護予防活動について説明させていただいた。 	
	地 活 動 介 支 護 予 防	<ul style="list-style-type: none"> シニアリーダーとの連携、協力 老人会など既存組織へ働きかけ、予防活動を普及する。 		<ul style="list-style-type: none"> 総合相談からもシニアリーダー体操の参加に結び付けることが出来ている。シニアリーダー体操に引き続き適宜参加し支援してきた。 老人会にも介護予防活動についてお知らせすることが出来た。 	
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> 各職種の職業倫理や使命を大切に。そのために各自が研鑽に励む。 		<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して職員間の情報共有を密にして公正・中立を意識した活動を行えた。 各職種の専門性を活かして協力して相談活動、地域づくりの活動を行えた。 		

※人口データは平成28年6月30日現在

平成28年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 幕張		主任介護支援専門員 (2) 人	社会福祉士 (1) 人	保健師等 (2) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	65,937			
	高齢者人口	12,197			
	高齢化率	18.50%			
担当圏域 地区課題	昭和40年代～50年代に建設されたマンション群があり、建築当初に入居された方々は高齢者年齢を迎える方が多い。新たに住宅を自治会や老人会の他、小集団での自主的なグループ活動が行われているが、参加者の高齢化と運営や企画の役割分担・引継ぎが円滑に進まない集団もあり、活動の継続が難しくなる集団も存続している。				
活動方針	地域包括ケア実現を目指し、地域住民組織や他機関・多職種との連携を強化し、顔のつながり、横のつながりを構築する。そのために、地域課題の分析をおこない、地域住民の自主活動支援を常に意識して取り組む。				
センター業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> 郵便局の出張相談を継続する。広報紙を定期発行し、従来の自治会掲示板以外にも範囲を拡大し、センターの周知活動を展開する。 民生委員による高齢者訪問において、支援が必要な高齢者の早期発見ができるよう、具体的な視点について伝える機会をもつ。 総合相談で対応した個別ケースにおいて地域ケア会議を開催し、地域組織や個人とのつながりを構築できるよう支援する。総合相談を分析し、具体的なアプローチ方法を検討する 		<ul style="list-style-type: none"> 様々な相談に対し3職種で協力し訪問、随時且つ迅速な対応を心がけた。ワンストップサービスの拠点としての機能を維持していくよう活動してきた。 広報誌や地域の自主活動グループや催しなどへの参加することでセンターの周知をして頂けるようになり近隣住民の方や民生委員の方達、医療機関などからの相談が増えてきている。引き続き訪問を基本とし、丁寧且つ迅速な相談活動を展開してゆく。 前期から課題となっている地域ケア会議は3月開催に向けて調整中。早い時期から開催を検討していたが具体的な計画を立案できず、次期にむけ課題が残っている。地域課題や支援を要する高齢者の早期発見のため、自治会や民生委員、地域組織との連携を強化しつつ個別課題における地域ケア会議の開催に努めてゆく。 広報誌は配布先を拡大して周知につとめた。掲示を見た住人からの反応もあり手応えを感じており、内容の充実も図っていききたい。 	
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> 認知症カフェが千葉市介護支援ボランティア制度の該当となるか検討し、ボランティアを募り、自主化を目指す。 認知症サポーター養成講座を基に、権利侵害や被害が発生しやすい事例等を紹介し、深刻な事件の発生予防や回避を図れるように取り組む。 郵便局等に呼びかけ、センター主催で認知症サポーター養成講座を開催する。 三職種が繰り返し虐待に関する研修に参加し、事例発生時は行政と協力しながら早期に対応できるよう研鑽する。 千葉市消費生活センターからの情報収集を定期的におこなう。 		<ul style="list-style-type: none"> 公民館や既存の組織や関係機関での認知症サポーター養成講座や地域の居宅介護支援事業所からの相談が増えてきている。 認知症カフェの自主運営には及ばなかったが、ボランティアスタッフとして認知症認定看護師や訪問看護師、薬剤師、精神保健福祉士等専門職が参加、相談体制が充実し、必要時は疾患医療センター、サポート医等に対し(個別)情報提供を図り早期受診へつなげている。 虐待：地域老人会等であんしんが相談窓口と説明の機会を得た。 消費者被害：地域の老人会や介護支援専門員、介護保険サービス事業者等に研修や地域への情報提供時に区内センターと連携し情報収集をおこなった。 	
	包括的・継続的・ケアマネジメン	<ul style="list-style-type: none"> 区内センター合同で開催している合同連絡会やCMのつどい、花見川区多職種連携会議を企画し、定期的に相互の情報や意見交換しながら共通理解や課題把握に取り組む。 主任介護支援専門員有資格者の情報把握と結集の呼びかけ、主任ケアマネの会の運営自主化を目指す。 		<ul style="list-style-type: none"> 毎月開催している主任ケアマネの会は参加者が定着。区内の介護支援専門員を対象に開催される「ケアマネの集い」は会を重ね、主体的に区内の主任ケアマネが協同し企画・開催が図られ、向上心や連携が強くなってきている。 主任ケアマネの会を通じ学習や研修等の情報共有が図られ包括的・継続的ケアマネジメントにむけた地域づくりへ繋がっていきと感じている。 センターから介護支援専門員に個別にアプローチは行っていないが、個別に相談や問い合わせがあったケースについては一緒に訪問する等心がけている。 次年度に向け総合事業開始に伴う制度の理解や地域資源の情報共有等、主任ケアマネの会やケアマネの集い等を活用し介護支援専門員への支援をおこなっていく。 近隣医療機関との連携を徐々に進めつつあるが、あんしんケアセンターを知らない医院が多い。まずはセンターを知って頂くことを第一とし、地道に周知活動を継続していききたい。多職種連携会議への呼びかけ・挨拶回りの際にあんしんのリーフレットや介護保険のパンフレットを活用し、お互いに利益に繋がるような活動を継続していききたい。 	
	介護予防ケア	<ul style="list-style-type: none"> 二次予防事業参加の把握を自治会、老人会、民生委員などと連携をとりながら進める。 高齢者調査などでも協力が得られるようはたらきかけ、対象者把握を行い、教室参加者を増やす。 教室修了者へは健康維持への取り組みを継続できるよう地域の自主グループの情報提供をおこなうとともに、地域住民自身が地域での活動組織の必要性を認識し、自主グループを立ち上げられるよう支援する。 		<ul style="list-style-type: none"> 前期に引き続き圏域内老人会(老人クラブ加盟)に働きかけ、会合にてチェックリストを実施することにより教室参加者の拡大につながった。 シニアリーダーとの連携で検見川公民館で教室開催が始まった。 生活コーディネーターとの連携をとり、地域情報を収集している。 	
	普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> 地域の既存組織のサロン等へ参加して「介護予防」の啓発をおこなう。 自治会や社協、民生委員などと連携をとりながら「介護予防」「認知症予防」などの普及啓発をおこなう。 センター広報紙を活用し、引き続き介護予防体操の紹介をおこなう。 三職種内で年間を通した担当組織を決め、出張講座や教室開催の案内をおこなう。 		<ul style="list-style-type: none"> 幕張コミュニティまつりでの体力測定を千葉県理学療法士会や生活支援コーディネータ等の協力を得て開催することができた。 幕張公民館で認知症サポーター養成講座やキッズサポーター養成講座を開催することができた。 今期から新たに武石町老人会に毎月参加。介護予防啓発等を行っている。 	
地域活動支援	<ul style="list-style-type: none"> 地域の自主活動グループが生き生きと活動を継続できているか、定期的に訪問して活動状況や悩みを把握し、必要な助言をおこなう。 区内のシニアリーダー同士がお互いの状況を把握できるよう懇談会を毎月開催することとなり、そこを通じて活動する場の情報提供など連携を図りたい。また、参加者同士が周囲の方々の生活変化に気づく視点の育成ができ、できる限り早期に課題把握や解決に向けた行動へつなげられるよう支援する。 		<ul style="list-style-type: none"> 自主活動グループへの定期訪問や活動状況や悩み等を把握しサポートをおこない内容の充実に向け支援をおこなった。 シニアリーダーや生活コーディネーターなどと協力し新たに検見川公民館での教室を立ち上げることができた。 健康課と定期的に会議を開催。地域で行う教室などへの協力も得られている。 		
その他	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民や活動組織からの情報収集に加え、生活支援コーディネーターの協力も得ながら圏域内の社会資源を整理する。 		<ul style="list-style-type: none"> 地域住民や活動組織からの情報収集に加え、生活支援コーディネーターの協力も得ながら圏域内の社会資源を整理、個別課題を通し地域ケア会議を活用し地域との連携を拡げていききたい。 		

※人口データは平成28年6月30日現在

平成28年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 山王		主任介護支援専門員 (2) 人	社会福祉士 (2) 人	保健師等 (1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	41,694			
	高齢者人口	11,946			
	高齢化率	28.65%			
担当圏域 地区課題	高齢化率が急速に上昇している。集合住宅地区では地域におけるネットワークが機能しているが、高齢化が進んでいる。一戸建て地区においてはサービスの利用に結びついておらず、地域との関わりが薄く、問題を抱えたまま生活している高齢者がまだまだ潜在していると思われ、地域住民や行政機関などとも連携を深めていく必要がある。				
活動方針	地域包括ケアの実現に向けて、地域住民、行政、医療機関等との連携・ネットワーク作りを進めていく。高齢者が地域で生活していけるよう、介護予防の推進に努めていく。				
センター業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> 様々な相談や課題に対し、3職種で連携し、チームアプローチを行っていく。 夜間休日の相談体制（特養から職員の携帯に連絡）を継続し緊急時にも対応できるようにしていく。 体操教室の開催や出前講座の企画、地域の集まりへの積極的な参加等で、センターの周知をしていく。 相談内容から地域課題が抽出できるような体制を整えていく。 		<ul style="list-style-type: none"> 3職種で協働し、様々な課題を抱えたケースに迅速な対応を行うことができた。 夜間休日の相談体制（特養から職員の携帯に連絡）を継続できた。緊急時にも対応できる体制を維持し、連絡・調整などの対応を行うことができた。 圏域内3箇所体操教室を開催。区民祭りやイオン稲毛での稲毛区あんしんケアセンター合同での測定会、あやめ台いきいきセンターと合同での測定会を開催。地域の集まりにも積極的に参加し、センターの周知を図った。 相談内容に対しシートを活用し、スクリーニングを行うことで地域課題の抽出を図った。 	
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> 高齢障害支援課とは随時、窓口・電話相談、ケース会議を行うことで迅速に対応できるようにしていく。 稲毛区あんしんケアセンターと高齢障害支援課、稲毛区社会福祉協議会、千葉市生活自立・仕事相談センター稲毛、民生委員、生活コーディネーターとの地域ケア会議を定期的に開催し、連携を深める。 地域活動の中で消費者被害や成年後見制度の周知・啓発を行い、成年後見支援センターやNPO法人、消費生活センターと連携していく。 認知症疾患医療センターと連携し、適正な医療が受けられるようにしていく。 介護保険事業者や医療機関、民生委員を対象とし、権利擁護を目的とした研修会を開催する。 		<ul style="list-style-type: none"> 高齢障害支援課とは随時、相談や報告、同行訪問を行うなど、連携して迅速な対応を行うことができた。 高齢福祉課による事例検討会、虐待研修に参加し、虐待対応についての検討を行うことができた。 成年後見制度が必要なケースに対し、成年後見支援センターやNPO法人、弁護士などと連携して対応を行うことができた。 地域活動の中で消費者被害について説明を行った。 地域住民に対し、認知症疾患医療センターや認知症家族会などの紹介を行った。 稲毛区内のあんしんケアセンター合同で、介護保険事業者などに対する権利擁護を目的とした研修会を開催した。 	
	包括的・継続的・ケアマネジメ	<ul style="list-style-type: none"> ケアマネ連絡会を開催し、ケアマネジャーのスキルアップや情報交換を図っていく。 稲毛区ケアマネネットワークの会合を行い、更なるネットワークの構築を図っていく。 稲毛ケアマネ通信を発行し、情報発信を行っていく。 稲毛区主任ケアマネ会義の開催、経験年数別の事例検討会を行うことで、ケアマネジャーの支援を行っていく。 2ヶ月に1回ケアマネジャー向けに稲毛区のあんしんケアセンター合同で出張相談を開催する。 		<ul style="list-style-type: none"> ケアマネ連絡会を予定通り開催し、ケアマネジャーのスキルアップや情報提供を行った。 稲毛区ケアマネネットワークの会合を2回開催し、ネットワーク構築を図った。 稲毛ケアマネ通信を予定通り発行した。 稲毛区主任ケアマネ会義を2ヶ月に1回開催、事例検討会をテーマ別に行い、ケアマネジャーに対する支援を行った。 2ヶ月に1回ケアマネジャー向け（一般の方も相談可）に稲毛区のあんしんケアセンター合同で出張相談を開催した。 稲毛区あんしんケアセンターと高齢障害支援課、健康課、稲毛区社会福祉協議会、千葉市生活自立・仕事相談センター稲毛、民生委員、生活支援コーディネーター、赤十字奉仕団、町内自治会連絡協議会、老人クラブ連合会をコアメンバーとした地域ケア会議を開催した。 千葉市介護予防ケアマネジメントの手引き委員会の委員として活動し、千葉市と共催で居宅介護支援事業者向けの総合事業説明会を開催した。 	
	介護予防ケア	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動の中で介護予防の啓発を行っていく。 健康課、いきいきプラザ・センターとの連携会議の参加等で連携を密にし、介護予防事業を推進していく。 介護予防イベントを開催し、その中で二次予防事業卒業生の状態把握とフォローを行っていく。 保健福祉センターやシニアリーダー等と連携しながら地域活動の支援を行っていく。 		<ul style="list-style-type: none"> 長沼コミュニティセンターとの共催イベント、あやめ台いきいきセンターや柏台ファミリーハイツでの講演の中で介護予防の啓発や二次予防事業の紹介を行った。参加者にチェックシートを行ってもらい、対象者の把握や事業の案内を行うことができた。 健康課との連携会議を行い、連携を図った。 二次予防事業卒業生を対象にイベントを開催し、卒業後の状態把握とフォローを行うことができた。 	
	普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> 地域交流会ではあんしんケアセンターのPR、福祉制度、介護サービス、健康についてお話しする。 広報誌は年4回発行し、公共機関に配布する。 認知症サポーター講座の開催。 区民祭りへの参加。 緑ヶ丘公民館、山王公民館、長沼コミュニティセンターでの体操教室を月1回開催する。 介護予防イベントを年3回開催し、介護予防への啓発を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> 地域交流会における講演やイベントにて、介護予防に関する講座を行い、普及啓発に努めた。 広報誌を発行し、介護予防を中心とした情報発信を行った。公共機関等（10ヶ所）へ配布を行った。 認知症サポーター講座や認知症についての講演を行い、地域における認知症に関する理解を広めた。中央区の認知症キッズサポーター養成講座の見学を行った。 認知症地域推進員の研修を受講した。 緑ヶ丘公民館、山王公民館、長沼コミュニティセンターでの体操教室を月1回開催。地域交流会でも体操を行い、介護予防の普及啓発に努めた。 二次予防事業卒業生、体操教室参加者、近隣住民を対象としたイベントを開催し、介護予防に関する意識の向上を図った。 イオン稲毛にて月1回稲毛区あんしんケアセンター合同での測定会を開催し、あやめ台いきいきセンターと共催で、測定会を2回開催した。区民祭りに参加し、介護予防の啓発活動を行うことができた。 	
防地域活動介護支援	<ul style="list-style-type: none"> いきいきサロンの活動への支援を行う。 シニアリーダーの体操教室、いきいき体操への支援を行う。 住民主体の体操教室の運営を支援する。 		<ul style="list-style-type: none"> いきいきサロンの活動について支援を行った。 シニアリーダー養成講座への協力、シニアリーダー連絡会への参加、シニアリーダー体操教室の運営について支援を行った。 いきいき体操教室の運営について支援を行った。 新規の体操教室の立ち上げについて相談・協力を行った。 		
その他	<ul style="list-style-type: none"> 医療関係団体の会合や研修会へ参加する。 多職種連携会議を開催する。 		<ul style="list-style-type: none"> 多職種連携会議を2回開催し、区内の医療・介護関係者の連携を図った。 事例を医師から提供いただき、新しく会議に参加いただけた医療関係者も多くあった。 		

※人口データは平成28年6月30日現在

平成28年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 天台		主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等
			(1) 人	(2) 人	(2) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	43,467			
	高齢者人口	11,565			
	高齢化率	26.61%			
担当圏域 地区課題	稲毛区内の包括で唯一大型団地を担当している。高齢化および独居が増え困窮者対応が多い。				
活動方針	地域の民生委員、自治会代表等と連携を図り、課題が潜在しているうちに予防的な支援を行う（地域の特性に合わせた地域づくり、既存サービスの活用、支え合いの体制づくり）。				
センター 業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	総合 相談 支援	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の三職種ミーティングでスクリーニングを行うとともに、必要時には個別ケース会議を開催し、問題解決に取り組む。 ・担当圏域の自治会とイベント等（年4回以上）で連携し、顔の見える関係づくりを心掛ける。センターの活動などお便りを周知していく。 ・区高齢障害支援課、区社会福祉協議会、生活自立・仕事相談センターと連携会議を開催していく（年4回以上） ・相談を数値種別化し、地域ごとの主な相談内容を把握していく。数値が特化している地域については地域ケア会議（年2回以上）を開催していく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて、3職種でのスクリーニングを実施することはできた。困難ケースなどについては、個別ケース検討会議を開催し、チームとしての対応方法の検討を行うことができた。 ・イベント等を通じ、顔の見える関係づくりに努め、地域住民が気軽に安心して相談に来られるようなセンター作りに努めた。 ・年間を通じて、ほぼ予定通りに区高齢障害支援課、区健康課、生活自立仕事相談センター、社協と連携会議を行うことができた。会議を通じて、顔の見える関係ができたこともあり、必要時は速やかに連携を取ることもできた。 	
	権利 擁護	<ul style="list-style-type: none"> ・お便りや認知症サポーター養成講座を通して、成年後見制度の説明を取り入れ、担当圏域の方へ周知していく。 ・区高齢障害支援課（年4回以上）と連携会議を行い、速やかに連携が図れるようにしていく。 ・認知症サポーター養成講座（年4回以上）を開催し、認知症の方が差別的な扱いを受けることのないようにしていく。 ・消費生活センター、警察などと連携し、必要に応じて説明会等を開催していく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座やお便りのなかで、消費者被害についても説明を行い、地域住民へ注意喚起することができた。 ・連携会議や地域ケア会議を通じ、連携強化を図ったこともあり、虐待ケース等の必要時には速やかに同行訪問等を行うことができた。 ・認知症サポーター養成講座を目標以上（年5回）実施し、地域住民に認知症の方への関わり方、地域での取組について説明を行い、認知症の方が住み慣れた地域でいつまでも生活できるよう支援を行った。 ・今年度お便り等での周知活動は行えたが、消費生活センターや警察の講演会をするまでに至らなかったため、来年度は実施できるように努めていく。 	
	ケ ア マ ネ ジ メ ン ト ・ ネ ジ メ ン ト ・	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種連携会議や地域ケア会議を開催し、困難ケースに対しては関係機関と協働し解決に向け連携を図る。 ・介護支援専門員対象の研修会（年4回）、事例検討会（年4回）、出張相談など行いスキルアップを図る。 ・圏域の介護支援専門員や生活コーディネーター、地域住民と情報交換を行い、地域のマップを作成し、地域の課題、必要なサービスを抽出し働きかける。 		<ul style="list-style-type: none"> ・区多職種連携会議は年2回定着したが、医療と介護の連携が更に密になるようセンター毎の開催ができるように働きかけていく必要がある。地域ケア会議が定期的にできたところは顔の見える関係もでき、困難事例でも連携がすぐ行えた。 ・アンケートを実施した地区では住民側と対等に話し合いができ、お互いの立場を踏まえたうえでの意見交換ができた。 ・ケアマネジャー対象に研修会や事例検討会など継続して行えた。 ・圏域ケアマネジャーとの連絡会も定着して行えた。情報交換等行えたが、資源マップを作成し、情報提供するまでではできなかった。 	
	マ ネ ジ メ ン ト ケ ア	<ul style="list-style-type: none"> ・委託プランに対し、自立支援に繋がっているかを確認し、必要に応じ助言する。 ・介護予防事業の参加を促し、安全に活動できるための環境調整を行う。 ・体操教室対象者等に、介護予防の必要性を話していく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・2次予防事業や一般介護予防事業、そして、介護保険は、いつまでも自立した生活が継続できるための糧として意識付けし利用できるよう説明し、対応にあたることができた。また、インフォーマルサービスを多く利用できるよう地域での体操教室やサロン等を把握し情報提供することができた。利用者が地域の体操教室に参加することにより、健康講話を受け、介護予防を継続していくきっかけとなってきた。 	
	普 介 護 予 防	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会と共催し体操教室「あんしんストレッチ」の継続（月1回） ・センター主催の体操教室「い〜ねの会」の開催（2か所の公民館、月1回ずつ） ・ボランティア育成と主として体操教室「Green」と認知症予防を含めた認知症カフェ「Green」の開催（月1回） ・健康講座、健康測定会の実施（年3回以上） 		<ul style="list-style-type: none"> ・自治会と共催しおこなってきた、来年度、自主化に繋がられ良かったと思う。 ・住民の活動の場を広げられ、介護予防事業の受け皿が多くなり生活支援体制の整備にも貢献できた。 ・主催の教室や自治会へ出向き健康講座や健康測定会をおこなうことにより、住民の介護予防の意識を高めることができた。 	
	地 域 活 動 介 護 予 防	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で効果的な介護予防活動ができるよう、センター主催体操教室でボランティアを育成していく。 ・住民、行政、既存ボランティア団体等と情報交換を行う。 ・シニアリーダー講座卒業生と協働し、地域での体操教室の開催支援を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・住民参加型の介護予防ができるように、Greenボランティア養成講座・天台ピクス講習を開催しボランティアを養成した。また、他の関係機関が育成したサポーターも引き入れ、介護予防事業の受け皿である「い〜ねの会」で、元気高齢者が地域で活躍し継続できるように環境を整えられた。 	
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・センター職員全員に個人情報マニュアルを周知徹底し、確認を継続する。 ・サービス事業所、ケアマネジャー紹介等についての的確にアセスメントを行い、公正中立を意識する。 ・活動の中であんしんケアセンターの周知を図る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・①②③に関しては、機会があるたびに意識して行った。今後も継続的に行い、職員全員で周知していく。 		

※人口データは平成28年6月30日現在

平成28年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 小中台		主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等
			(1) 人	(1) 人	(2) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	41,137			
	高齢者人口	9,055			
	高齢化率	22.01%			
担当圏域 地区課題	高齢者を取り巻く環境は多様化した生活課題が混在しており、特に独居や高齢者のみの世帯の問題は深刻化しやすい。孤立化していかないようにつながりを持つ活動実践も早すぎる高齢化に追い付かない現状にある。高齢者自身が新たな人間関係や地域支援のつながりを活用するのに躊躇する傾向がある。早期発見の受け皿となるまで時間がかかる。				
活動方針	地域の民生委員や社会福祉協議会の地区部会、自治会の組織などと協働し、高齢者の多様化した生活課題にいち早く気づき、気軽に連絡や連携が図れる関係を構築する。また、活用できる制度などの情報提供と住み慣れた地域で生活を続けるための住民主体の活動を組織化できるように働きかけを行う。				
センター業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と同様に、自治会や地区部会、サロン等に参加し、顔の見える関係を作ること ・相談窓口であることを周知していく。 ・所内会議を活用し情報共有し、支援方法の検討を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・4センター合同の健康チェックにより、センターの周知に一定の効果はあった。人伝えに聞いて来る方や65歳以下の方へあんしんケアセンターについて説明する機会がもてたことは、様々な世代に対しセンターの周知ができたと評価する。 ・前日にあった総合相談の内容を翌日の所内会議で情報共有することで、多様な視点で支援方法を検討でき、早期介入できる体制作りが確立できていると評価する。 ・H28年度より小中台便りを自治会で配布し、回覧や掲示していただいた。住民に対しセンターの周知が行えていると考えており、次センターへ引き継ぐ。 	
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者虐待の対応など地域の住民を対象に研修会を2回程度開催をする。 ・稲毛区内の事業者を対象に、年2回研修会を開催し制度情報を提供する。 ・各地区の住民と社会福祉協議会と協働して、自主活動ができる地域作りを目指す。 ・消費者詐欺や金銭搾取被害の実態を調査し、その予防策の提案や講演会の開催等、実態に即した対応を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・稲毛区内のあんしんケアセンターと共同した研修会は、2回開催を行うことができた。介護保険の事業所を対象に研修会を行うことは、権利擁護の啓発活動を行う上でもよかったのではないかと判断している。この研修会を通して知り合った弁護士と地域の高齢者の支援に結びつける事例もあり、地域のケアマネとの連携を図るきっかけにもなった。 ・地域作りを住民と考える素地作りとして地域ケア会議を区内の有力者（民生委員の会長や自治会組織の会長、地区部会の会長や老人クラブの会長等）に声を掛け見守り活動の住民組織の必要性を伝える機会を作ったが、なかなか区内の小さな組織にまで浸透しなかった。2月22日の地域ケア会議ではもう少し広く参加者を呼びかけ、ワークを通して検討の機会を持つことで身近な問題として一緒に検討できるように修正をした。 	
	包括的 ネットワーク 継続的 マネジメント ・ケ	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議、多職種連携会議を開催する。 ・地域の高齢者の支援のため、介護・医療の関連機関をはじめ、関係者と連携をはかる。 ・稲毛区合同で主任介護支援専門員連絡会、介護支援専門員連絡会、事例検討会、出張相談を実施する。 ・圏域での主任介護支援専門員連絡会、ケアプラン勉強会を実施する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議、多職種連携会議、研修会や事例検討会などはすべて計画通り実施でき、毎回参加者数も多く、熱心さがうかがえた。多職種連携会議では、初めて参加する関係機関、専門職などが多く、地域での新たな連携づくりのきっかけとなった。 ・出張相談については、年間を通して実績がなかったため、今年度で廃止することとした。個別の相談については、随時対応、支援を行った。 ・圏域や稲毛区内の主任介護支援専門員・介護支援専門員同士のネットワークはすでに構築されており、自己研さんもされているが、一方、研修に参加しなかったり相談のない介護支援専門員や一人事業所への支援については課題となっている。 	
	介護 予防 マネジメント ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・稲毛区健康課との情報共有と協働を目的とした、連携会議の定例化 ・基本チェックリストを活用した対象者のスクリーニング ・一般介護予防事業の情報提供と参加推奨 		<ul style="list-style-type: none"> ・稲毛区健康課と介護予防事業に関し一緒に活動する機会が増え、連携が強化されたと評価できる。 ・基本チェックリストをもとに、対象者に合わせた講座や教室を紹介し、それに参加した方から効果を実感した、という声の方が多く聞かれたため、基本チェックリストをもとに的確な情報提供ができた」と評価する。 	
	普及 啓発 予防	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座の実施（穴川・轟町地区、小仲台地区、小中台町地区） ・介護予防教室の実施（穴川、轟町、小仲台地区、小中台町） ・基本チェックリストを活用し、一般介護予防事業の情報提供 ・民生委員、自治会、地区社協等と連携強化 		<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座は3回/年と回数は少ないながらも様々な地区から参加していただいたこともあり、幅広い方へ認知症について伝えることができた。 ・介護予防教室に加え、4センター合同で毎月行っているイオン健康チェックにおいて、これでも関わりの機会が少なかった住民と対話することができた。そして、あんしんケアセンターの普及啓発をはじめ介護予防や健康について考えるきっかけづくりになっている。 	
	地域 活動 介護 支援 予防	<ul style="list-style-type: none"> ・あんしんケアセンター主催の体操教室の実施（穴川集会所、小仲台地域福祉交流館） ・体操教室から自主サークル活動への移行支援 ・自主サークル（第二稲毛ハイツ自治会、火曜会、木曜クラブ、轟サークル）の後方支援 		<ul style="list-style-type: none"> ・当センターの体操教室は誰でも参加できるため、参加者からはこれまで体操に興味がなかった人たちや閉じこもり傾向にある人たちも誘いやすいと、認識してもらっている。また体操教室で紹介した介護予防教室や講演会などにも積極的に参加して下さる方が多く、介護予防へ前向きな意識を感じている。 ・自主サークルの参加者は季節により体調を崩し休む方や、長期間お休みしている方もいるが、リーダーさんが適宜連絡し状況把握している。質の高い住民主体の体操サークルになっている。 	
その他	28年度も毎月の給付管理の機会を利用し、予防ケアプランの委託業者の確認と、ケアプランに位置づけた介護サービス事業者に偏りが無いか確認を行う。		毎月確認を行うことで偏りが無いか意識する機会にもなり、特定の事業所へ偏ることがなかった。29年度は次センターに引き継ぎ、公正中立に業務を行えるように確認をしていく。		

※人口データは平成28年6月30日現在

平成28年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 稲毛		主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等
			(1) 人	(1) 人	(2) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	31,719			
	高齢者人口	6,381			
	高齢化率	20.12%			
担当圏域 地区課題	高齢者人口が約6,000人を超え高齢化率約20%となり、大型住宅街やマンションに団塊世代が多く居住している地域であり、今後急速に高齢化が進む地域です。昨年より認知症の相談が増加してきており、認知症の普及啓発に取り組んでいる状況であり、更なる関係機関及び地域との連携を強化していなければならない。また今後も高齢者を取り巻く様々な問題に対応していくために、公民館やいきいきプラザ、包括主催の活動の場を増やし、セルフマネジメントの意識を高めていく必要がある。				
活動方針	高齢化が急速に進む地域であるため、認知症の増加が見込まれることから、認知症対策の取組みを強化していく。また介護保険の改正が介護予防事業の大きな転機となるため、地域の特性・地域単位での介護予防を普及啓発していく。地域包括ケアシステムの構築のために、地域の関係機関との連携体制を強化していく。				
センター業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> 月2回以上の三職種会議、ケース会議の開催 稲毛公民館、黒砂公民館での月1回の出張相談の開催 いきいきサロンへの参加（年3回程度） 個別地域ケア会議の開催（年4回程度） 精神保健分野地域ケア会議の開催（年2回） 稲毛地区地域ケア会議の開催（年3回） 		<ul style="list-style-type: none"> 三職種会議、ケース会議は月2回定期で開催したことで、課題の検討力、三職種間の連携、繋がりを強化し、それぞれがレベルアップを図ることが出来る時間となったと感じる。 新しい取り組みであった、イオン稲毛での健康チェックを行ったことであんしんケアセンターの周知を、これまでになく広い世代に向けて行うことが出来た。今年度は介護予防普及啓発が中心となったが、来年度は三職種それぞれの分野を活かした講座等を広く行いたいと考えている。 いきいきサロンでは、サロン参加者のニーズに応じた制度説明、情報提供を行った。顔なじみの参加者や、地区部会・民生委員との関係性も強まり、高齢者の居場所作りを共に作り上げることが出来たと感じる。 精神保健分野地域ケア会議では、圏域内のケアマネジャーや作業所、クリニックと共に精神疾患の方の意思尊重など、権利擁護の観点も含めた話し合いを持つことが出来た。 稲毛地区地域ケア会議は今年度3回開催し、地域包括ケアシステムの構築の必要性、支え合い・見守りを通じた地域作りについて話し合う機会を作ることが出来た。 	
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> 稲毛区4センターで社会福祉士連絡会議を開催する（月1回） 地域ケア研修会を開催（年2回） 高齢障害支援課、生活自立・仕事相談センター、社協との連携会議の開催（年3回） 高齢者虐待ケースにおける積極的な介入と啓発活動（行政との連携、研修への参加） 高齢者虐待ケースにおいてコアメンバー会議の活用を行う 千葉市消費生活センターと連携し、消費者被害啓発講座を開催する（年1回） 成年後見人制度普及啓発活動（年1回） 認知症サポーター養成講座の開催（年4回） 認知症疾患医療センターとの連携 		<ul style="list-style-type: none"> 今年度は市長申し立て支援が3件あり、行政との連携を密に行い、申し立て手続き支援を行うことが出来た。今後も制度の活用が増加すると予想されるため、センターとしても、実践的な権利擁護業務として普及啓発と合わせて、後見人申し立て手続きを積極的に活用していきたいと考える。 今年度明らかな虐待ケースの相談はなかったが、不適切なケアや疑いのあるケースが潜在していることを見越して、社会福祉士が連携し、関係者に気づきの視点を持つことが出来る研修を継続的に開催し、高齢者虐待防止に努めたい。 消費者被害に関しては、継続的な注意喚起と少人数での講座を開催したことで、効果的な啓発を行えたと感じる。来年度も消費生活センターと連携を図り、注意喚起に努め被害抑制に努めたいと考える。 認知症サポーター養成講座では、疾患についての理解と、サポーターとして求められる役割について考える時間をつくったことで、地域で活躍出来るサポーターを養成することが出来たと感じた。 今年度新たに発足した認知症初期集中支援チームでは、積極的かつ継続的な訪問をチーム員で行ったことで、ケースに新たな方向から関わることが出来た。 	
	包括的・継続的・ケアマネ	<ul style="list-style-type: none"> 稲毛区主任ケアマネとの協働にて事例検討会（年4回）の開催を実施 困難ケースの支援ができる体制づくり、区単位（出張相談・奇数月第2木曜日）、圏域単位（窓口対応）が連携を図りながら確立できるようにする。また個別ケース地域ケア会議の開催を実施し、各関係機関との連携を深めていく。 稲毛区ケアマネ連絡会（年4回）では、居宅のケアマネの声をどのように拾いあげるか検討し、よりよい研修会・勉強会を開催できるように努めていく。 稲毛区全体・圏域内において、人の入れ替わりが多いこともあるため、勉強会・交流会（年2回）を開催し、常に連携が図れるよう努めていく。 		<ul style="list-style-type: none"> 区全体で実施した連絡会や研修会を定期的に行うことで、多職種との連携が深まり、ケースについての広がりをもてることができ、地域ケア会議まで発展することができた。地域のケアマネジャーも制度が変化していくことで、業務への不安があるため、同じ職種として確認し合うことで安心感ももたれるようになった。 事例検討会への出席人数も安定し、意欲的なケアマネジャーも多いことも分かり、毎回活発な意見が聞くことができた。 区あんしん主任ケアマネ出張相談会においては、利用して下さるケアマネジャーが少なかった。ケースの相談においては、時間などのタイミングにより相談がしづらいため、今後の実施方法には再検討が必要であると考えている。 圏域で実施したケアマネサロンにおいては、地域の生活の情報発信や個別ケースの事例検討を実施したりと、有効活用ができた。少人数での開催となっていることで、お互いに話し易い環境で取り組むことができた。また医師の参加もあり、介護と医療の連携（顔の見える関係づくり）の第1歩として開催できた。 	
	介護予防ケア	<ul style="list-style-type: none"> 委託事業所との連携を図るために月1度の「コメント受付日」を設ける。 センター及び委託のケースともに、ケアマネジメントのプロセスを確認し書類等の管理を行う。 センター内のケアマネジメントの質の向上の為、年4回の内部研修、必要時ケースカンファレンスの実施。 稲毛区4センター合同の会議の開催。（月1回、年数回健康課も参加） 		<ul style="list-style-type: none"> 保健師職間で業務を精査、委託業務についても書類の整理やコメント受付の活用について検討を重ね、業務の効率化を図ることが出来た。コメント受付日を周知していくなかで、徐々に直接プランをみる機会も増えており委託先との顔の見える関係性の構築やそれぞれのプランの質の向上にも繋がってきていると感じる。 今年度から保健師職会議に健康課が定例参加することとなり、情報が錯綜することなく稲毛区で統一した対応ができるようになっていく。また社会福祉協議会へも働きかけをすることで、今後の発展が期待される。 センター内で定期的に研修等を開催することで、個々のスキルアップの向上を図ることが出来た。 	
	普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動、総合相談での基本チェックリストの活用 稲毛公民館、黒砂公民館の活動（月1回ずつ） あんしん新聞発行（月1回） ボランティアの力を借りて、いきがい教室の開催（随時） あんしんカフェの開催（月1回） あんしんランチ（週1回） 		<ul style="list-style-type: none"> 目的別に広報誌を作成することで対象者を分け配布することができ広報活動の幅を広げることが出来た。あんしん通信については職種別に内容を分けて記載し掲示板に掲示していったが、情報量が多く分散してしまう傾向があったため、次年度は様式や発行回数等を検討しより効果的にセンター周知が図れるツールとしていく。 あんしんランチは、一年を通し参加者のいない月がなく、事前予約や天候不良時のトラブルもなく運営できた。あかりサロン稲毛からランチを提供してもらうことで、あかりサロンとの連携も図ることができ相乗効果となっている。また参加者している高齢者の多くが独居であり、ランチを心待ちにしている声も多く、共食の必要性の高さを感じる事が出来た。 あんしんカフェは毎月一回、脳トレや体操の他に健康の話など月毎にテーマを決めて集いの場を開催している。独居や転居により社会とのつながりが少ない人などが交流することで、心身の健康保持に繋がっている。 公民館活動では、いきいき体操を行い集まって体操をする機会により地域住民同士が顔なじみの関係になり、声をかけあっている関係が出来ている。また定期的に運動を行うことで自宅での運動習慣の形成や意識の向上に役立っている。次年度に向け、参加者主体の教室への意向を働きかけている。 	
地域活動介護予防	<ul style="list-style-type: none"> 地域把握したものを町別ごとにデータ化する。 データ化したものを用い、関係機関との連携を図っていく。 あんしんカフェの開催（月1回） いきいきサロンの支援（年4回） 稲毛町老人会での講座（年2回） 黒砂高灯会での講座（年2回） 黒砂文化祭・稲毛台町文化祭での体力測定（年1回ずつ） 稲毛台町シニア体操後方支援（月1回） 黒砂会ラジオ体操の後方支援（月2回） あかりサロン稲毛運営会議（月1回） 黒砂台3丁目老人会での活動立ち上げ 		<ul style="list-style-type: none"> 地域の資源を把握していくために地域活動に積極的に出向くことだけでなく、小規模単位での地域ケア会議が有効であると感じた。 シニアリーダー事業については連絡会への参加や個々のシニアリーダーとの情報交換を実施、事業を把握できたこと圏域内で立ち上がったシニア体操を後方支援という形で継続的に支援していくことができた。 地域ごとの課題に合わせ、臨機応変に対応していくことが地域のネットワークづくりへと繋がるということ黒砂防災会議の事例を通して学ぶことが出来た。 黒砂台3丁目にて地域ケア会議を開催、地域活動へ参加を継続する中から地域ケア会議へと発展することができ、地域活動に参加していくこと、地域ニーズを把握することの必要性を感じる事が出来た。 稲毛台町では今年度も月1回程度の地域ケア会議を継続開催することができ、地域の現状把握、ニーズの把握、ネットワーク構築へと結びつけることが出来た。 		
その他	<ul style="list-style-type: none"> 居宅介護支援事業所の一覧リスト作成及び特徴を踏まえた資料の作成。 利用者へのアンケート調査及びデータ化する。 		<ul style="list-style-type: none"> 居宅介護支援事業所や利用するサービス事業所、紹介する事業所に偏りが出ないよう情報を整理し対応することが出来た。 担当する利用者に対しても満足度アンケートを実施し、公平性のある対応をそれぞれの職員が心がけることが出来た。 		

※人口データは平成28年6月30日現在

平成28年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター みつわ台		主任介護支援専門員 (2) 人	社会福祉士 (1) 人	保健師等 (1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	35,513			
	高齢者人口	9,369			
	高齢化率	26.38%			
担当圏域 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> ・都賀の台では高齢化率が高く、それに伴って支援を必要とする人数が増加すると見込まれる。総合相談においては、認知症や精神に関わる相談が増加している。 ・ボランティア、自治会などの活動に地域差がある。 				
活動方針	<ul style="list-style-type: none"> ・住民主体の多様なサービスを支援の対象とするとともに、NPO、ボランティア等によるサービス資源の開発を支援する。 ・地域ケア会議等で地域の課題を抽出し、課題解決の為に地域の支え合い活動を支援する。 				
センター 業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	総合 相談 支援	<ul style="list-style-type: none"> ・出張相談会を設けるため自治会長等との連携を図る。 ・若葉区多職種連携会議（年2回、7月、11月）事例を通して多職種の方との連携を強化する。 ・若葉区内のソーシャルワーカーの連携を図り、医療、介護の包括的なケアをおこなう。（年3回） ・若葉区主任介護支援専門員会議（事例検討会、年3回）主任会支援専門員及び介護支援専門員の連携を図る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・介護支援専門員、主任介護支援専門員、社会福祉士がそれぞれの連絡会を開催し、連携の強化や資質向上を図った。今後も継続して、互いの信頼関係を深め、資質向上に努めていく。 ・地域ケア会議を通して地域の自治会や民生委員及び住民の方々と連携が取れ、総合相談の分析も含めて地域の課題を共有することができた。 	
	権利 擁護	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉東警察署との情報交換会（年1回）警察との連携を深める。 ・若葉区主任介護支援専門員会議（事例検討会、年3回）主任介護支援専門員及び介護支援専門員の連携を図る。 ・若葉区ソーシャルワーカー連絡会（年3回）若葉区内のソーシャルワーカーの連携を図り、医療、介護の包括的なケアをおこなう。 ・千葉市社会福祉協議会、NPO法人、法テラス等と連携を図り、成年後見制度・虐待の講座を開催する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民、自治会、民生委員、サービス事業所等に向け成年後見の研修会を開催した。また消費者被害、高齢者虐待の講座を開催をした。 	
	包 括 的 マ ネ ジ メ ン ト ・ 継 続 的 ・	<ul style="list-style-type: none"> ・若葉区地域ケア会議（年1回、11月） ・定例地域ケア会議（毎月） ・若葉区多職種連携会議（年2回、7月、11月）事例を通して多職種の方との連携を強化する。 ・介護サービス事業所向け研修会（年3回以上）を4センター共同でおこなう。 ・若葉区内あんしんケアセンター管理者会議（年4回） ・若葉区支え合いのまち推進協議会（年4回）に参加する。 ・3ヶ月に1回圏域内の介護支援専門員に対し、事例検討会または研修会を継続して行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・若葉区4センター合同の会議、研修会は出席し、4センターの連携強化を図った。 ・介護支援専門員の連絡会を定期的に行い、情報提供や資質向上へ向けた勉強会を行い連携強化を図った。 	
	マ ネ ジ メ ン ト ケ ア	<ul style="list-style-type: none"> ・健康課主催保健師職会議（4月、12月）4センターの管理者、保健師と健康課との交流を図り、連携を強化する。 ・健康課で主催する健康教室などを参加しづらい地域に紹介し地域による偏りを失くす。 ・自立支援に向けて、住民主体の支援等、対象者の状態や目標にあった支援を組み合わせ利用できるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアが活動しているシニアリーダー体操後のカフェやケアカフェに参加しボランティア活動の推進活動を行った。 ・積極的に健康課や他のセンターの保健師と交流を深め、情報収集に努めた。 	
	普 介 護 予 防	<ul style="list-style-type: none"> ・若葉区民祭り（11月、4センター）血圧、握力測定を行い、パンフレット等をおして介護予防の周知を図る。 ・都賀CC祭り（9月）の中で地域住民に基本チェックや健康相談に応じる。 ・都賀いきいきセンター健康相談（1月）：みつわ台、桜木、千城台、地域住民に接して健康相談に応じる。 ・若葉いきいきセンター祭り（2月）：千城台、大宮台 ・地域住民等に認知症サポーター養成講座を開催する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・若葉区民祭り、都賀CC祭りに参加して住民の方に直接、介護予防の周知を行った。 	
	地 域 活 動 介 護 予 防	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関の会合等に参加し、介護予防活動状況を把握し、それらを育成・支援する。 ・認知症サポーター講座や成年後見の講習会を開催する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域のボランティア活動の把握に努め、またボランティア活動を推奨した。 ・地域住民に認知症サポーター養成講座を行った。 	
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議を開催して、地域の課題を抽出し、課題解決の為に支え合いの会の発足を支援する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・住宅環境毎に地域を分け、その地域毎に地域ケア会議を行い、地域毎に支え合いの会の立ち上げを推奨する。 		

※人口データは平成28年6月30日現在

平成28年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 桜木		主任介護支援専門員 (3) 人	社会福祉士 (2) 人	保健師等 (1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	60,575			
	高齢者人口	14,798			
	高齢化率	24.43%			
担当圏域 地区課題	<p>1. 圏域の地区特性は、繁華街・商店街・住宅街・公営住宅の多い地域・古くからの農村地帯など多岐に渡っている。</p> <p>2. 高齢化率も一番人口の多い若松町は20.03%と低い、若松台2丁目は47.82%とその差が大きい（平成28年6月）。</p> <p>3. 地域住民の地域福祉に関する意識の差が大きい。</p> <p>4. 身寄りのいない一人暮らしの高齢者や介護者に精神疾患のある相談など複合的な問題を抱える相談が多くなっている。</p>				
活動方針	<p>1. 担当圏域の地域ごとの特性を捉えた取り組みを実施する。</p> <p>2. 法人理念に基づいた当センターならではの活動を展開する。</p> <p>3. 生活支援コーディネーターと協同し、自立した地域づくりを目指す。</p>				
センター業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> 朝礼・スタッフ会議・事例検討会・法人内事例検討会その他必要に応じて日常の業務の中で情報交換を行う。 困難事例に関しては関係機関とのネットワークを生かした対応を行い、個別地域ケア会議の開催を随時行う。地域のネットワーク作りと事例検討の場として、若葉区多職種連携会議を年2回（7月、11月）、若葉区（主任）介護支援専門員会議（年3回）開催する。 定例地域ケア会議を毎月開催し、事例検討の場としても活用する。 担当圏域地区ごとの地域ケア会議を随時開催する。若葉区ソーシャルワーカー連絡会を年3回開催し、情報の共有と援助技術の向上を図る。 		<ul style="list-style-type: none"> 3職種がチームとなり対応できるよう努めているが、まだ不十分な部分もある。今後も内部事例検討会・また日常の業務の中でもチームワークを意識した相談業務を展開していきたい。 地域ケア会議・多職種連携会議・若葉区（主任）介護支援専門員会議・若葉区ソーシャルワーカー連絡会などから関係機関との協力体制の構築がはかれた。 解決困難なケースに関しては見守り体制を構築し、対応してきていたが今一度再構築の見直しを行う予定。 町丁ごとの地域ケア会議の開催し、特に住民意識の高い地域への講演会開催などすすめることができた。 	
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> 虐待研修を内部・外部共に積極的に参加する。若葉区ソーシャルワーカー連絡会で、権利擁護の事例を検討する。 必要に応じて行政と連携をとり、措置入所の実施や成年後見制度の利用を進める。 千葉東警察署と千葉市老人施設協議会との「高齢者の安全安心に関する協定」に基づき、東警察署と介護保険事業者との情報交換会を開催（5月か6月）する。 		<ul style="list-style-type: none"> 虐待対応に関しては行政との連携も含め、早期発見・相談・通報ができる体制を整え、実施した。介入ができず、見守り対応となっている事例も引き続き対応している。今後は体制整備と共に職員の対応能力向上の為に外部研修参加も積極的に行っていききたい。また、所内の事例検討会も更に重点的に行っていききたい。 研修会その他連絡会にて権利擁護をテーマに行うことができた。 高齢者の権利擁護の為に東警察署の協定締結や介護保険サービス事業者への情報交換会を開催することができた。 	
	包括的 マ・ネ・ジ メ・ン・ト 的・ケ・ア	<ul style="list-style-type: none"> 4センター合同で若葉区全体の地域ケア会議の開催（11月）。定例地域ケア会議の開催（毎月）、年度末は若葉区高齢者保健福祉ネットワーク連絡会として開催する。社協地区部会ごとの地域ケア会議を開催する（年数回）。 多職種連携会議を開催する（年2回）。 4センター合同で介護サービス事業者向けの研修を開催し、ケマネジャー及び介護従事者の資質の向上を図る。 主任介護支援専門員・介護支援専門員対象の事例検討会を開催する。圏域内及び委託先の居宅介護支援事業所を訪問し、アンケートを実施し、ケマネジャーの状況把握や連携を図る。 若葉区支え合いのまち推進協議会委員、及び企画委員として、計画を推進する。 あんしんケアセンター管理者会議を随時開催する。 		<ul style="list-style-type: none"> 若葉区全体での地域ケア会議1回・担当圏域・個人レベルでの地域ケア会議の開催を行うことができた。 若葉区4センター合同で介護保険事業所・（主任）介護支援専門員・ソーシャルワーカーに向けて研修会を開催し、資質向上へ尽力した。 あんしんケアセンター桜木ならではの地域づくりに向けて、他機関への調整・生活支援コーディネーターとの協同等努めてきた。特に多職種連携会議の開催（年2回）により医療関係者との関係は深まってきていると感じる。これからもネットワークを構築し、またそのネットワークを強固にしていくことをすすめていきたい。 担当圏域内の居宅介護支援事業所に向けて講習会や茶話会などは来年度に向けての課題である。 	
	マ・ネ・ジ メ・ン・ト 的・ケ・ア	<ul style="list-style-type: none"> 目標を明確化したプランを作成し、関係者を目標を共有するよう連携を密にする。 様々な講演会やサロンへ出向いた際に、介護保険法第4条に基づき高齢者の介護予防に対する意識を高め、自ら介護予防に取り組むように支援する。 チェックリストを実施し、対象者を振り分け適切な介護予防事業へつなげる。 		<ul style="list-style-type: none"> 適切なアセスメントを行い、プラン作成を行い高齢者に適切なサービスが受けられるよう支援してきた。 介護予防に関する講演会の実施を積極的に行った。 介護予防事業への参加を促す際には対象者が少なく、周知活動なども行ったが十分な参加は得られなかった。 	
	普 及 予 防	<ul style="list-style-type: none"> 地域のサロンその他活動サークル等を訪問し、普及啓発を図る。千葉市介護支援ボランティアについても制度や研修会の普及啓発活動を行う。 生活支援コーディネーターと協同し、地域の課題分析・特性の把握に努める。 認知症サポーター養成講座・その他認知症疾患医療連携会議へ参加し、認知症予防・見守り体制へと強化を図る。27年度に引き続き、28年度も「若葉区子ども力プロジェクト」として、若葉保健福祉センター、地域包括ケア推進課、社協地区部会と協力して中学生向けに認知症サポーター養成講座を開催する（28年度3校予定）。 		<ul style="list-style-type: none"> 介護予防に関する講演会の実施を積極的に行い、普及啓発をはかった。 認知症サポーター養成講座の積極的な開催により、認知症予防や地域で支える体制を整えることができた。 今年度も引き続き「若葉区子ども力プロジェクト」を通して若い世代への認知症理解へ向けて発信をすることができた。 地域特性に合わせた対応まではまだできていないので、今後担当圏域も縮小されることもあり、新たに地域特性の把握から特性に合わせた対応を確立していきたい。 	
	地 域 活 動 支 援 予 防	<ul style="list-style-type: none"> 地域の自主サークルで行っている介護予防教室を継続支援する。 ボランティアによる料理教室「だれでも作れる楽しいごはん」、歌声喫茶を継続支援する。シニアリーダーや千葉市介護支援ボランティアが活動しやすいうように情報提供等を行う。 社協・生活支援コーディネーターと協力し、地域の多様なサービスの実態把握を行い、介護予防・日常生活総合支援事業の開始に向けて支援・体制作りを行う。 		<ul style="list-style-type: none"> 自主サークル活動の支援・ボランティア支援や社協・生活支援コーディネーターとの協同の中から体制整備を行うことができた。 日常生活総合事業に開始に向けて関係機関との調整・生活支援コーディネーターとの協同等すすめていくことができた。来年度の事業開始に向けて情報収集・整備等尽力していきたい。 今後も引き続きシニアリーダーの活動の協力をしていきたい。 	
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> 講演会のPPT資料作成し、周知活動を行う。あんしんケアセンター桜木通信を発行する。 日常の業務の中で特定の事業者には偏りが無いよう留意し対応する。 		<ul style="list-style-type: none"> 公正中立な事業を心掛け、千葉市の委託事業として周知活動その他日常の業務に尽力した。 		

※人口データは平成28年6月30日現在

平成28年度千葉市あんしんケアセンター運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 千城台		主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等
			(2) 人	(2) 人	(1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	36,631			
	高齢者人口	12,174			
	高齢化率	33.23%			
担当圏域 地区課題	<p>・担当圏域の総人口は減少傾向にあります。高齢者人口の増加により高齢化率は年々上昇、その中でも単身高齢者、高齢者夫婦のみの世帯や近隣や地域との関係が希薄化した世帯の増加により、世帯の問題が潜在化し、問題が表面化した場合は重度化、複合化していることが多く、地域における見守りや支援体制の構築が課題となっています。また、地域の団体は互助組織の立ち上げやサロンの開催等熱心な活動を続けているが、今後どのような広報活動を行えば各種活動への積極的な活動への参加を頂けるのか、その発信する情報を如何に高齢者へ届け地域活動への参加に繋げるかも課題となっています。</p>				
活動方針	<p>1. 地域包括ケアシステムの構築に向けて、地域の実情に応じた「顔の見える関係作り」を行い、関係機関との連携強化や情報共有を図ります。 2. 地域ケア会議の開催し、地域状況や課題分析を行い、地域課題解決に向けて関係機関との協働体制を構築します。 3. 地域住民の心身の健康保持、日常生活の安定のために必要な相談支援の充実や各種講座等を開催し、健康の維持増進に向けた取り組みを行います。</p>				
センター業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> 区内あんしんケアセンター主催の情報交換会や研修会・連絡会を定期開催し、総合的な支援体制のネットワーク構築。 「千城台東南、金親地区」及び「千城台西北、御成台地区」で定期的な地域ケア会議開催に向け、地域住民や自治会等への声かけを今後も継続し会議実施に向けて準備を行う。 定期的にスーパージョン機能をもつ総合相談支援・困難事例検討会の開催(月2回)で、総合相談支援経過の見直し、支援方法の検討を包括3職種で行い、チームアプローチを推進。 若葉いきいきプラザ出張相談会(毎週1回 2時間) 若葉区多職種連携会議の開催(年2回) 区内センターの社会福祉士会議開催(2ヶ月に1回以上) 区内相談員職によるソーシャルワーカー連絡会開催(年3回) 		<ul style="list-style-type: none"> 総合相談は関係機関等への周知活動や各種イベント等への参加により広報活動を行った結果、前年同期と比較して相談件数が増加。単身高齢者や高齢者のみの世帯、認知症に関する相談事案が増加しているが、センター内事例検討会を開催し、3職種で情報共有や解決に向けてチームアプローチを行う体制が構築された。また、若葉いきいきプラザへの出張相談はアウトリーチ活動として毎週1回2時間の訪問を行い、総合相談受付やセンター周知活動等の活動拠点として定着している。 個別の地域ケア会議の開催はできたが、地域を対象とした地域ケア会議開催回数は1ヶ所のみで、次年度は同所の継続開催と地域を絞込んだ地域ケア会議の開催を検討している。 区内センター共催にて若葉区地域ケア会議1回、若葉区多職種連携会議を2回共催し、地域包括ケアシステム構築に向けた取り組みが推進されている。 	
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> 認知症サポーター養成講座の開催(年2回以上)。 地域住民や介護支援専門員、関係機関への成年後見制度や日常生活自立支援事業等勉強会の開催(年1回以上)。 高齢者虐待の早期発見に向け、早期相談・連携を促進出来るような個別ケースや既存の情報交換会や連絡会を基盤としたネットワーク作りの継続。 消費者被害の情報把握を引き続き行い、地区部会サロン訪問時や個別支援時の情報提供及び関係機関や地域住民への周知の継続。 		<ul style="list-style-type: none"> 認知症サポーター養成講座は今年度も計画回数が行っており、地域住民への認知症の理解は限定的ではあるが周知されてきている。一方で介護保険制度の知識だけでは認知症という疾患への対応・受容・理解を同居者等家族が出来ない、あるいはできない状況下にあることも現状あり周知だけでなく、個別的な支援の中で理解に繋がる環境下に調整する為、権利侵害への早期相談・早期発見に今後も努めていく必要があると感じている。 圏域の情報交換会における消費者被害・クーリングオフの情報提供・相談員職連絡会において成年後見制度・日常生活自立支援事業の紹介を関係機関を対象に行ってきた。介護予防の観点や権利擁護の普及啓発においては、上記を地域住民を対象として行えるよう計画していきたい。 	
	包括的 ネジメン ト・ケ アマ	<ul style="list-style-type: none"> 若葉区地域ケア会議共催(年1回)、区内センター及び区高齢障害支援課、区社協との定例地域ケア会議開催(月1回) 区内センター合同の介護サービス事業者向け研修会開催(年6回)。 区内センター合同の区多職種連携会議開催(年2回) 区内センター合同の「東警察署と千葉市老人福祉施設協議会との高齢者の安全安心に関する協定」情報交換会開催。 区内センター管理者会議開催(年4回) 区支え合いのまち推進協議会への参加(年4回) 圏域主任介護支援専門員情報交換会(偶数月)、圏域事業者情報交換会(奇数月)の開催。 区内主任介護支援専門員事例検討会(年3回) 区内ソーシャルワーカー連絡会(年3回) 		<ul style="list-style-type: none"> 今年度を通じて連絡会や研修会を行い、専門職同士が互いに顔の見える関係作りが構築されたと思われる。個別の居宅介護支援事業所の介護支援専門員からの相談も多く圏域の介護支援専門員の在籍状況などの確認を通じて、コミュニケーションを図り支援を行うことができた。しかしながら、当座の問題への対処などに追われてしまい、地域での介護予防における支援段階での後方的な支援を通じての当センターとの関係性の構築ができるように体制を整える必要があったと思われる。 担当圏域の利用者を支援する介護支援専門員に対して、地域のインフォーマルな社会資源の利用による自立支援へのケアマネジメントが行える情報の準備が不足していたと感じており、今後3職種間での情報交換や調整により見直しなどを行っていく必要があると考えている。 介護保険を中心とするケアマネジメントによるケアプランを、より包括的に支援するために、区内の病院(MSW)、特定相談支援事業者(相談支援専門員)、老人保健施設(支援相談員)、行政(ソーシャルワーカー)間での連携できる事例を共有するなどの機会を設けていくための具体的な企画や調整を行えなかったため、今後3職種間での連携にて検討を開始したいと考えている。 	
	介護予 防ケ ア	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動の際に基本チェックリストを行い、早期の機能低下発見し、日常生活の見直しや健康の維持増進に必要な情報提供を行い、行動変容に繋げる。 要支援者へサービス提供にあたり、「心身機能」「身体構造」「活動、参加」を念頭に、個々の状況を把握して適切なサービスが多様な事業所から総合的かつ効率的に提供されるよう配慮する。また、介護予防サービス計画作成後も、高齢者やその家族、サービス事業者との連携を継続的に行う事により、その実施状況や解決すべき課題を把握し、必要に応じてサービス計画の変更や事業者との調整。 区健康課地域健康づくり支援連絡会への参加。 区介護予防事業に関する意見交換会への参加。 		<ul style="list-style-type: none"> 高齢者が要支援・要介護状態になる事を可能な限り防止できるよう、地域活動や総合相談の場において、基本チェックリスト等活用し、早期の機能低下の発見に努め、必要な助言や、必要性の高い高齢者においては、活動や社会参加・介護予防教室等への参加を促し、二次予防事業等に繋げることができた。 市元気アップ教室参加高齢者へは、参加中モニタリングや助言、修了後の活動についての助言・紹介を行うことで、自立した生活維持につなげることができている。 早期ケアマネジメントが必要な閉じこもりがちな高齢者の実態把握ができておらず、それら実態把握のための情報収集方法等の検討までには至らなかった。 	
	普 及 予 防	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員定例会、地区部会サロン、自治会、老人クラブ等の集会、また、区民祭り等地域でのイベント参加による広報活動を行い、センターの周知や介護予防に関する知識の普及啓発に向けた広報活動を行います。 地域の幅広い年齢層を対象とした認知症サポーター養成講座を開催し、認知症予防や認知症に対する正しい理解の習得に向けた取り組みを行います。 		<ul style="list-style-type: none"> 民生委員定例会、地区部会サロン、自治会、老人クラブ等の集会、また、区民祭り等地域でのイベント参加による広報活動を行い、センターの周知や介護予防に関する知識の普及啓発に向けた広報活動が行うことができた。 直営介護予防教室において、健康維持や介護予防に関するミニ講話を積み重ねて行うことで、健康意識の向上や知識の普及が行えた。 更なる出前介護予防講座等の開催について、積極的広報活動を行うまでには至らなかった。 地域の幅広い年齢層を対象とした認知症サポーター養成講座を開催し、認知症予防や認知症に対する正しい理解の習得に向けた取り組みが行えた。 	
地 域 介 護 予 防	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防、健康増進を目的とした団体への助言、情報提供等を行い継続開催への支援活動を行う。 若葉いきいきプラザ連携事業 (1)生きがい活動支援通所事業者等を対象とした教養講座開催。 (2)一般向講演会開催 県営小倉台団地自治会、美助っ人クラブ、シャローム若葉連携事業の貯筋体操教室への支援。 圏域内の新たな通いの場の立ち上げ支援。 シニアリーダーの活動状況の把握と活動支援。 千葉市広域リハビリ支援センターへの圏域内介護予防教室の活動について情報共有を行うとともに活動への提言を依頼。 		<ul style="list-style-type: none"> 左記具体的な活動の実施や継続的取り組みにより、健康増進や介護予防を目的とした団体へコミュニケーションを密に取りながらニーズに即した助言や活動支援が行えた。 直営介護予防体操教室において、千葉市広域リハビリ支援センターへの情報共有と共に活動内容の助言を受けたことにより、次年度に向けた内容の充実や参加者の意欲継続へつなげることができた。 地域ニーズの充足に必要な新たな社会資源の開発に向けた取り組みとして千城台西県営住宅にて健康体操教室の立ち上げや活動支援を行い、地域高齢者の社会活動や介護予防参加へと繋げることができた。 		
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> サービス提供が特定の事業所に偏る事の無いように、介護予防支援における事業所毎の自主点検の実施。 高度化、多様化する様々な相談に対応できるように専門機関職員の資質向上を目的とした千葉市及び外部機関や職能団体の行う研修へ積極的な参加を実施。 		<ul style="list-style-type: none"> 指定介護予防支援のサービス利用状況を毎月分析したほか、居宅介護支援事業所への紹介率の確認を行い、特定の事業所に偏ることなく、公正中立なサービス提供を行う事が出来た。 外部研修への積極的な参加を行い、個々の技能向上を図るとともに、研修参加報告書の作成、閲覧による情報共有を行いセンター全体の課題対応力の向上を図ることが出来た。 		

※人口データは平成28年6月30日現在

平成28年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 大宮台		主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等
			(1) 人	(2) 人	(1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	17,669			
	高齢者人口	7,791			
	高齢化率	44.09%			
担当圏域 地区課題	高齢化率40%を超える圏域であり、独居や高齢者世帯が多く、認知症（疑い）の方が増えている。集落が点在している地域特性があり、何らかのニーズを持っていてもサービスにつながっていないかったり、問題を抱えたまま生活しているケースが考えられる。				
活動方針	積極的に地域の情報収集や多職種との連携に努め、「地域包括ケアシステム」の構築・推進に取り組む。				
センター業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> ・3職種が連携し、適切に対応する。 ・迅速対応を心掛け、複数人で関わるように取り組む。 ・必要に応じて適切な専門機関や制度、サービス等につなげる。その後の経過を把握しフォローする。 ・地域ケア会議を開催し、個別ケースの課題解決や地区の課題把握につなげる。 ・認知症疾患医療センターと連携を図る。 ・地域密着型サービスの運営推進会議に出席する。 【区内4センターとの合同開催】 ・若葉区多職種連携会議を開催する（年2回/7月・1月）。 ・若葉区介護支援専門員連絡会（事例検討）を開催する（年3回）。 ・若葉区ソーシャルワーカー連絡会を開催する（年3回）。 		<ul style="list-style-type: none"> ・個別事例の地域ケア会議や困難事例の対応において、今年度は警察署（派出所）との関わりが増えた。来年度は担当圏域におけるネットワークの構築、課題の分析・共有に向けた、地区ケア会議を開催する。 ・毎朝夕のミーティングで、抱えている事例の検討・報告を実施しており、日常的に気軽に相談できる関係性が築けている。3職種が連携して対応し、複数人で関わるように取り組んでいる。 ・若葉区多職種連携会議や若葉区介護支援専門員連絡会、若葉区ソーシャルワーカー連絡会は計画通り開催することができた。若葉区介護支援専門員連絡会については、講師を招いて充実化を図った。若葉区ソーシャルワーカー連絡会については、定期開催が定着し、新たな参加者・職種も増えた。 	
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> ・地区社協や民生委員、自治会等に向け、権利擁護について普及啓発活動を行う。 ・高齢者虐待の予防と早期発見・対応に努める。高齢支援係や他関係機関とそれぞれの役割を明確にし連携を図る。「千葉市高齢者虐待防止マニュアル」に従い適切に対応する。 ・成年後見制度や日常生活自立支援事業について、成年後見支援センターやNPO法人など関係機関との連携を図る。 ・消費生活センターや千葉東警察署と連携を図り、消費者被害情報の把握や対応を行う。 【区内4センターとの合同開催】 ・千葉東警察署と介護サービス事業者等との情報交換会を開催する（年1回）。 ・若葉区ソーシャルワーカー連絡会を開催する（年3回）。 		<ul style="list-style-type: none"> ・虐待や困難ケース、成年後見制度などの相談においては、関係機関と連携し対応した。高齢支援係とは相談しやすい関係が築けており、地域ケア会議やケース会議の開催、同行訪問など連携して対応することができている。 ・権利擁護については、社会福祉士が中心となり対応しているが、必要に応じて保健師や主任介護支援専門員が同行訪問するなど、協働して取り組んでいる。虐待ケースについては、千葉市高齢者虐待防止マニュアルに基づき対応した。 ・若葉区内介護サービス事業者対象に、今年度も「千葉東警察署と介護サービス事業者等との情報交換会」を開催することができた。 ・若葉区ソーシャルワーカー連絡会については、定期開催が定着し、新たな参加者・職種も増えた。成年後見制度についてパネルディスカッションを行った際、千葉市成年後見支援センターの方をパネリストとして招いた。気軽に相談できるようになった。 ・消費者被害やその他犯罪については、千葉東警察署や消費生活センターなどから情報収集し、講演会の際に紹介したり、事務所に掲示したり、普及啓発に努めている。千葉東警察署からの定期的な情報（メール）が途絶えているが、積極的な連携ができていない。 ・普及啓発が積極的に行えていないので、地域ケア会議や定例会等において普及啓発を行う。 	
	包括的・継続的・ジェンダー・ケアマネ	<ul style="list-style-type: none"> ・介護支援専門員の個別相談支援を行う。 ・圏域内介護支援専門員対象に茶話会（事例検討会）を開催する（年3回）。 【区内4センターとの合同開催】 ・若葉区地域ケア会議を開催する（年1回/11月）。 ・高齢支援係と社協、生活支援コーディネーターとの定例地域ケア会議を開催する（毎月）。※年度末は若葉区高齢者保健福祉相談ネットワーク連絡会として開催する。 ・若葉区多職種連携会議を開催する（年2回/7月・1月）。 ・介護サービス事業者向け研修会を開催する（年6回）。 ・若葉区介護支援専門員連絡会（事例検討）を開催する（年3回）。 ・区内センター管理者会議を開催する（年4回）。 ・若葉区支え合いのまち推進協議会に出席する（年4回）。 		<ul style="list-style-type: none"> ・圏域内の介護支援専門員に対する茶話会については、計画通り年3回開催し、毎回テーマを決めて勉強会を行った。来年度は、1回を「ケアマネジメント支援のための地域ケア会議」とし、その他2回の茶話会については、内容の充実を図る。 ・若葉区地域ケア会議と若葉区多職種連携会議、定例地域ケア会議、研修会等については、区内センターと連携して実施できた。 ・若葉区介護支援専門員連絡会については、講師を招いて充実化を図った。 	
	介護予防ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の活動の場を把握し、総合事業の開始にそなえる。 ・適切なアセスメントを実施し、個々のニーズに合った教室につなげる。 ・保健福祉センターや若葉いきいきプラザ、大宮いきいきセンター、シニアリーダー事務局等と連携を図る。 【区内4センターとの合同開催】 ・健康課主催保健師職会議に出席する（4月・12月） 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の活動に参加して、介護予防や認知症の啓蒙活動を行った。シニアリーダーの育成が進んだ。 ・シニアリーダー講座修了者による自主グループが4箇所に加え、少しずつではあるが地域に定着しつつある。参加者は健康意識が上がり、好評だった。 ・若葉区健康課と区内4センターが連携し、介護予防活動に取り組むことができた。 ・地域で実施されている活動の把握が不十分である。活動を把握し、自治会やサロン等に積極的に出向いて普及啓発を行う。 	
	普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・「若葉区子どもカプロジェクト」として、大宮中学校にて認知症サポーター養成講座を開催する。 ・認知症サポーター養成講座を開催する。 ・地域の高齢者に向け、あんしんケアセンターにて「お達者カフェ」を開催する（月1回）。 ・民生委員定例会や自治会活動、ふれあい・いきいきサロン等に参加し、講演会や説明会を開催する。 ・大宮いきいきセンター生きがい活動支援通所事業の参加者に対し講演会を行う。 【区内4センターとの合同開催】 ・若葉区民まつりに参加し、介護予防の普及啓発を行う（11月）。 ・あんしんケアセンター千城台とともに、若葉いきいきプラザセンター祭に参加する（2月）。 		<ul style="list-style-type: none"> ・中学生に向けて、寸劇等を用いた認知症サポーター養成を開催し、認知症に関する理解を深めることができた。地域住民向けの認知症サポーター養成講座の開催頻度が少なかった。 ・お達者カフェの毎月開催が叶わず、参加人数も減少傾向にある。大宮地区の住民が集う商店を訪問して周知活動を行い、参加を呼び掛けた。来年度は周知活動を積極的に行い、参加者を増やす工夫をする。 ・白井地区部会開催の「ボランティア講座」で認知症の勉強会を行い好評だった。 ・大宮地区に向けた取り組みが不十分だった。大宮いきいきセンター生きがい活動支援通所事業の参加者に対する講演会も今年度は開催できなかった。 ・若葉区民まつりについては、区内センターと協力し周知活動を行った。 	
地域活動介護支援	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の高齢者に向け、大宮いきいきセンターにて「元気アップOB会」（月2回）と「にこにこクラブ」（月2回）を開催する。今後も自主サークルに向けた支援を継続する。 ・シニアリーダー講座修了者が実施するお達者カフェ（手芸やお茶飲み）の立ち上げを支援する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・「元気アップOB会」と「にこにこクラブ」は月2回ずつ定期開催できた。参加者は「元気アップOB会」が延べ203名、「にこにこクラブ」が延べ191名と、多くの参加が見られた（平成28年4月～29年3月10日時点）。「元気アップOB会」はシニアリーダーによるシニアリーダー体操を行い、「にこにこクラブ」はシニアリーダーによるシニアリーダー体操といきいき体操を行うよう移行している。 ・シニアリーダー講座修了者が実施する自主サークル、大宮地区の「あやめ会」、白井地区の「シニア体操白井」を後方支援し、地域の活動の場が増えた。参加者は「あやめ会」が延べ97名、「シニア体操白井」が延べ42名だった（平成28年4月～29年3月10日時点）。来年度は、新たに大宮町と新宮田地域で自主サークルを立ち上げる。 		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・適切なアセスメントを行い、個々のニーズにあったサービスを提案する。 ・特定のサービス事業所の利用を不当に誘引しない。 		<ul style="list-style-type: none"> ・適切なアセスメントを行い、個々のニーズにあったサービスを提案した。 ・自己決定できるように、複数のサービス事業所を紹介した。 ・特定の種類又は特定のサービス事業者に偏ることなく、公正・中立性を確保することができた。 		

※人口データは平成28年6月30日現在

平成28年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 鎌取		
	主任介護支援専門員 (2) 人	社会福祉士 (1) 人	保健師等 (1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	60,272	
	高齢者人口	8,706	
	高齢化率	14.44%	
担当圏域 地区課題	おゆみ野地区は新しい街ということで各種整備はされているが、他地域から移り住んできた人々が多いため連帯意識が希薄で、個人的傾向が強いと指摘されている。30代から40代という働き盛りの家族が多いため自治会加入率は低調。また遠方に住む両親を呼び寄せるケースも増えており、呼び寄せられた高齢者が地域になじみにくいといった状況もある。圏域内の北部と南部にある農村地域などでは、家族介護や連帯感の意識は強いが、これに伴ってサービスの導入が遅れ状態が悪化させる恐れもある。公営住宅では生活保護受給者や、高齢の独り暮らし・高齢夫婦のみ世帯の増加が見受けられる。		
活動方針	①担当圏域は約6万人と人口が非常に多いため、より詳細に各地区の特性と課題の把握に努め、その地域に適した地域包括ケアシステムの構築を目指す。②後期高齢者の割合は誉田圏域・土気圏域と比べて約半分の13%と低いため、要介護状態に陥らないようサロンや健康教室でアプローチする。③認知症サポーターの養成を進めて、地域全体で認知症に対する理解を深める。権利侵害を予防するため、成年後見制度の啓発活動も行っていく。④地域ケア会議の開催を通して、新たなネットワークの形成やケアマネジャーの後方支援、自立支援に資するケアマネジメントの実践を図る。		
センター業務	項目	具体的な活動計画	自己評価
	総合相談支援	①職員の資質の向上を図るために市や関係団体が主催する研修には積極的に参加する。制度や福祉に関する情報の収集のほか、市政便りからも情報収集を行い適切な相談対応ができるようにする。 ②緑保健福祉センター各課や医療機関・サービス事業所・専門相談機関・団体を把握し、地域の様々な関係者とのネットワークを構築し、在宅医療と介護の連携を推進する。 ③総合相談内容を分析するほか、民生委員や自治会、見守り活動団体などからも、地域の情報を収集して特徴をつかみ、更に地域の関係者や住民、ケアマネジャーなどへの情報発信に努める。生活不安のある独居高齢者宅などを適宜訪問し支援につなげる。	①専門職の資質向上に向けた研修や勉強会には積極的に参加している。呼び寄せ高齢者や複雑化した相談に対し、多様に対応できていると評価するが、29年1月から2月の2ヶ月間、新規相談者を対象に満足度アンケート調査を配布し、日常の相談対応を振り返り、より相談者に寄り添った対応や資質の向上を心掛けている。 ②総合相談において適切な支援が行えるよう、緑保健福祉センター各課や医療機関・サービス事業所・専門相談機関・団体を把握し、地域の様々な関係者とのネットワークを構築し、在宅医療と介護の連携を図った。今年度、緑区多職種連携会議で緑区の代表センターとして、上記関係機関との関係構築をより深めることができた。 ③総合相談の分析結果を民生委員や自治会、見守り活動団体、ケアマネジャー等へ情報発信し、各会合に参加することで圏域内のニーズ把握に努め、地域課題の支援につなげることができた他、新たな地域での関わりがスタートした。また今年度2月末時点の総合相談新規件数は、昨年度の同時期より37%増の結果となった。これはセンターの周知活動を継続的に行った結果とも言える。
	権利擁護	①緑区高齢者障害支援係と緑区あんしん3センターの社会福祉士との虐待対応連絡会は毎月開催する。3センター3職種が出席する虐待勉強会は年3回開催し、対応のスキルアップを図る。虐待についてサービス事業者や地域住民へ継続して啓発を行う。 ②認知症にかかわる支援を行う際は、常に権利擁護の意識を持ち成年後見制度の利用も視野に入れた対応を心がける。 ③消費者センターなどから定期的に情報収集を行い、サロンや訪問先などで注意喚起を行う。警察や消費生活センターの協力を得て、高齢者の権利侵害についてサービス事業者や地域住民へ啓発する体制を整える。	①高齢者虐待対応に関しては、緑区高齢支援班との連携に努めているほか、毎月の虐待連絡会や3センター合同の虐待勉強会を継続開催し、迅速かつ適切な対応ができるよう情報共有を図っている。センター内では、全職員が高齢者虐待防止法と高齢者虐待対応マニュアルに基づいた対応を心がけている。 ②身寄りがない方や認知症高齢者の増加に伴い、成年後見制度や日常生活自立支援事業の必要性も高まっている。地域住民に対しての啓発を、千葉市成年後見支援センターの協力を得ながら講演会というかたちで実施してきた。参加者からの反響もあり、次回開催を望む声もあることから、定期的に開催することで、制度の理解と周知に繋がると考えられる。 ③イオン鎌取にあるイベントスペースを活用し、警察や千葉市成年後見支援センター、千葉市消費生活センターとの共催により成年後見制度や消費者・詐欺被害に関する講演会を開催した。これらの講演会を通じ、関係機関との連携を図りながら、地域住民に対する啓発活動を行うことができた。しかしながら、昨年度から広報誌に掲載していた消費者被害注意報は内容の理解が住民には難しいとの声もあがり、現在は見合わせている。正確な情報を伝えないと誤解が生じることが考えられるが、理解しやすいような記事にするにはどのようにしたら良いか、引き続き検討していく必要があると考えられる。
	包括的 ネ・ジ メ ン ト ・ ケ	①個々のケアマネジャーから相談があった場合、地域ケア会議を用いた支援が必要か否かを精査し対応する。地域ケア会議を開催した際は、その事例が地域課題であるかを含め検討していく。 ②事例検討会をあんしん誉田と共催で年6回、鎌取圏域のケアマネ連絡会を年3回、緑区あんしん3センターで緑区合同ケアマネ連絡会を年1回、緑区主任ケアマネ連絡会を年4回開催する。連携や主任ケアマネジャーの役割を担うことを意識づける内容での研修や事例検討会を行う。その他、事業所への個別訪問を行い情報把握に努める。 ③圏域内の介護サービス事業所や民生委員等を対象に、勉強会や各種情報提供の機会を設け、サービスの質の向上と連携強化を図る。	①地域ケア会議は個別課題・地域課題の解決のため、少数ではあるがそれぞれ開催している。多職種連携会議については多数の出席があり、顔の見える関係ができ、且つ相談しやすくなったことで、他職種の役割や連携の必要性についての理解などの効果がみられている。 ②誉田と合同での事例検討会や有志の情報交換会、圏域のケアマネ連絡会等は予定通りの回数で実施している。その開催を通じ居宅ケアマネ間の連携を強化しながら、徐々に自主的な運営に向けられている。 ③地域のサロン参加者に対し居宅支援事業所のケアマネジャーの協力を得て、介護保険の利用やケアマネジャーの役割などについての情報発信に努めた。総合事業については推進協の広報誌「みどりのきずな」へ制度と利用に関するフローチャートを掲載し、地域住民に周知した。地域の介護保険サービス事業所の公正中立な情報提供を行うための体制作りとして、圏域内の通所サービス事業所全てを訪問し、情報収集した内容を元に通所マップを作成・配布している。これによりサービス事業所との関係性が深められた。
	マ 介 護 予 防 メ ン ト ケ ア	①計画書を確認して、自立に向けた適切なサービス利用ができるようにする。 ②基本チェックリストを確認して、介護予防教室への参加や介護予防事業の利用を提案する。 ③地域で行われている高齢者向けの教室やサークル活動を把握し、住民に情報提供できるようにする。健康課との会議に参加し、介護予防事業を推進する。	①ケアマネジャーに対しては計画書の確認を通じ、目標指向型ケアプランになるように都度助言を行うことで、自立支援を意識づけた。インフォーマルサービスについては圏域のケアマネ連絡会で情報を共有する機会を作ると共に、センター職員自らプランへの位置づけを意識的にやり活用を促進している。 ②多数の高齢者に基本チェックリストを施行し対象者を把握することはできなかったが、対象者となった方は元氣アップ教室に繋げることができ、その後も引き続き地域での介護予防への取り組みに参加できている。 ③緑保健福祉センターの主催する緑区健康フェアに協力したり、緑いきいきプラザと協力して健康相談会を行ったり、あんしんケアセンター誉田と合同開催した健康測定会などのイベントを行った。イベントには多数の参加者があり、地域住民の健康への関心の高さを再認識した。
	普 介 護 予 防 啓 発	①あんしんケアセンターの周知活動も兼ねた「古市場サロン」「おゆみ野いきいきサロン」の出張相談所は継続する。基本チェックリストを活用し、介護予防への取り組みを紹介する。 ②あんしんケアセンター広報誌のほか、介護予防教室やサロンなどのマップを作成して住民へ提示する。 出前講座（認知症・介護保険制度・介護予防教室・成年後見制度・悪徳商法注意喚起・食事口腔ケア・介護用品等）ができるように整える。	①センターへ来所できない方からの相談を吸いあげるため、センターが地域へ出向く形の出張相談会が開催できた。ゆみ〜イベントスペースでの開催のほか、地域からの要望に応える形で随時開催できている。 ②イベント開催を毎月定期的に開催することが決定した。認知症知識を意識した内容を、わかりやすいクイズ形式で作成し、各地域で施行している。
地 域 活 動 介 護 予 防 支 援	①社会福祉協議会緑区事務所を窓口とし民生委員や自治会、サロン、各種サークル、また見守り活動等の関係者に地域包括ケアシステムに関わる情報提供を行い、互助活動の促進を図る。 ②地域で活動している関係団体とも連携し、介護予防への取組みを開始または継続できるように、生活コーディネーターとの連絡調整を行う。 ③地域住民や各種団体、学校、医療機関などに向けて認知症サポーター養成講座を開催する。	①社会福祉協議会緑区事務所とは密に連絡が取り合っており、民生委員や自治会の会合にも必要に応じて出席し、情報共有ができている。 ②活動に参加し共に話すことで、住民が主体的に通いの場を創出したり（シニアリーダー体操教室や趣味活動の場）、見守りや助け合いの活動を継続したりすることができている。 ③認知症サポーター養成講座は予定通り開催できた。また、認知症地域支援推進員として地域に認知症の方やその家族の居場所や地域への正しい理解の普及啓発を行っている。	
そ の 他	①緑区内3か所のあんしんケアセンター3職種による定期的な会議開催のほか、緑保健福祉センター各課との連携を通じて、情報共有や連携を図る。 ②総合相談では相談者の意向を確認し、各サービス事業所について適切な情報提供が行えるよう、常に新しい情報を収集し、整理を行う。 委託事業として公正・中立性を確保する。	①緑区内3か所のあんしんケアセンター3職種による定期的な会議開催のほか、緑保健福祉センター各課との連携を通じて、緑区全体の地域福祉向上を促進した。 ②総合相談では介護サービス事業所の選定に当たり、公正中立な立場で情報提供を行う準備が整った。27年度の居宅介護支援事業所のマップ作成に引き続き、通所介護、通所リハビリのマップを作成し、複数の選択肢から相談者が自ら意思決定できる体制を作り上げた。意思決定が難しい相談者にはセンターからの紹介としているが、公正・中立性を意識し、偏ることなく業務に当たることができた。	

※人口データは平成28年6月30日現在

平成28年度千葉市あんしんケアセンター—運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 誉田		主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等
			(1) 人	(2) 人	(1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	21,789			
	高齢者人口	5,963			
	高齢化率	27.37%			
担当圏域 地区課題	1. 圏域は、誉田中学校区と同一の4町で構成され、緑区中心部から離れていて、行政の機関が遠い。 2. 駅周辺を除くと、交通の便が悪く、高齢者は体力が低下すると外出しにくくなる。 3. 社協や町内会の活動は続いているが、新しい活動やNPOが育たない状況にある。				
活動方針	1. 高齢者が自立して暮らせるまちづくりを目指し、関係機関との連携を深める。 2. 多くの課題を抱えた高齢者の課題解決に向けて、包括的な支援を行う。 3. 介護予防の啓発や活動支援を行い、要支援・要介護状態に進むことを防ぐ。				
センター業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> 誉田あんしんネットワーク会議を充実させ、情報交換や支援の協力体制を強化する。 地域ケア会議を積極的に開催し、包括的な支援を提供できる体制を整える。 イベントやサロン、あるいは老人会などを積極的に訪問し、地域の情報を集めたり、支援の必要がありそうなケースを掘り起こす。 		<ul style="list-style-type: none"> 誉田あんしんネットワーク会議や地域ケア会議で築かれた連携は、現実に即したものであり、現場での支援に大変役立っている。この連携の輪に、もっと介護支援専門員を組み込めるような働きかけを行えば良かった。 センター内ではできる限り主担当と副担当を決めて対応しているが、さらに多職種のチームを作って支援するケースが少なかったように思う。 認知症高齢者の支援の一環として、地元の事業所が、全面的な協力を申し出てくれたことは、大変心強く思う。 個人情報の公表には慎重にならざるを得ないため、自治会への協力を求めることを保留にしたことがあった。 アンケートで訪問した地域には、あんしんケアセンターの周知が進んだと感じている。 	
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員や居宅介護支援事業所等に高齢者虐待防止の啓発を行う。 個別ケースについて、帳票を活用し、迅速かつ適切に対応できるように、高齢支援班と連携を取りながら進めていく。 高齢支援班と区内のあんしんケアセンター社会福祉士との毎月の連絡会を継続し、情報交換等を行っていく。また3職種全員で対応していけるように、勉強会も継続していく。 消費者トラブルや成年後見制度等について、広報紙に掲載し広報していく。 サロン等高齢者が集まる場所で周知をしていく。 		<ul style="list-style-type: none"> 毎月3センターと高齢支援班と現在支援している事例を相談・検討することで、対応方法等の情報交換ができ、連携が出来ている。 虐待の疑いについても、帳票を活用することで、客観的にみることもできているが、分析については、区との調整が必要である。 以前は民生委員やケアマネから虐待の相談もあったが、今年度はほとんどなかった。虐待が表面化していないだけの可能性もあるため、早期に発見できるよう、地域に出向く活動を増やし、関係事業所や民生委員とのネットワークをより密なものにしていきたい。 認知症の高齢者と一人で介護している場合に虐待につながりやすいと思われるため、もっと気軽に相談できるようになるためには、どう広報を行っていけばよいか課題である。 消費者トラブルや成年後見制度について、広報紙を活用しての広報は継続したい。 警察による特殊犯罪についての講演会を開催できたことは効果的であった。 成年後見制度については、わかりやすく説明をする工夫が必要だと感じた。また高齢者だけでなく、その子供世代に周知する必要があると思われる。 	
	包括的・継続的・ケアマネジメンツ・ケ	<ul style="list-style-type: none"> 自立型ケアマネジメントを提供するための学びの場を提供し、その活動を評価するような場も設ける。 介護支援専門員から地元の情報を集め、みんなで活用できるよう情報交換をまめに行う。 「主任」として活動するための役割を作る。(例/事例検討会の運営など) 		<ul style="list-style-type: none"> 今年度から、緑区内の介護支援専門員全体で勉強会を開いている。圏域を越えた情報交換ができ、ケアマネジメントの見直しなどに役立っている。 予防ケアプランのまとめ方について説明することが多かった。新規立ち上げの事業所が続いた事、新しく入職した介護支援専門員がいたことなどによると思われるが、ベテランの介護支援専門員においても、ケースが少ないせいか、同じ説明を繰り返すことも時々あった。 主任介護支援専門員には「地域づくり」という役割もあるが、ケアマネジメント業務が多忙であることを承知しており、その上に地域づくりなどの活動に参加してもらうことに躊躇してしまう。千葉市から法人に対して、協力をお願いしてもらえれば、ありがたい。 	
	介護予防メンケ	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民の主体的活動での介護予防教室が開催されるように支援する。地域のサロンや老人会等への働きかけをする。 緑区保健福祉センター健康課やシニアリーダー事務局等との連携をもって進めていく。 		<ul style="list-style-type: none"> 元気アップ教室に認知症の方が参加することになった。初回は送迎車に乗せる支援をしたが、ちぐはぐな状態となり、本人の緊張が高くなくなってしまい、その後の利用はできなかった。家族も介護保険利用より、介護予防事業の利用を希望したが難しかった。 シニアリーダー体操の事務局やリーダーの努力は素晴らしく、連絡会等で感銘を受けるばかりです。が、誉田圏域にはリーダー養成講座に参加が少なく、リーダーが生まれず、教室の立ち上げができない状態となっている。地域でリーダーとなる方をみつけていくことが、今後必要となっている。 	
	普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ほんだ貯筋倶楽部を月一回開催して、室内でできる運動やウォーキング等を行い、運動の習慣づくりをする。 広報紙を地域に回覧して、介護予防の必要性や事業等の紹介をする。 イベント等での普及啓発活動を行う。体力測定や介護予防活動に関する情報を提供する。 高齢者向きの認知症サポーター養成講座では、社会参加や地域での支援を呼びかける。 		<ul style="list-style-type: none"> ほんだ貯筋倶楽部での千葉市いきいき体操やシニアリーダー体操の体験は、興味を持つ方も多く良かったが、教室の立ち上げまでには至らなかった。来年度は体験教室への参加をもっと多くして、リーダーを引き受けてくれるような方をみつけていきたい。 	
	地域活動支援	<ul style="list-style-type: none"> 緑保健福祉センター健康課・シニアリーダー事務局と連携して、地域での住民主体の運動教室の開催を支援する。 オレンジカフェではボランティアとともに地域の方とのコミュニケーションの場を作る。 		<ul style="list-style-type: none"> サロンや老人会への働きかけが少なかった。誉田地区はサロンや老人会が多くあるので、顔なじみの関係ができてきているが、もっと連携できるようにしていきたい。 	
	その他	<ul style="list-style-type: none"> 所内で介護支援計画書をチェックする。 事業所の情報を共有する。 		<ul style="list-style-type: none"> ケアプランチェックや毎朝の所内ミーティングでは、チームによる支援、不在時の連絡などにも役立っている。 	

※人口データは平成28年6月30日現在

平成28年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 土気		主任介護支援専門員 (2) 人	社会福祉士 (2) 人	保健師等 (1) 人
	担当圏域 地区概況	圏域人口 高齢者人口 高齢化率	45,523 11,565 25.40%		
担当圏域 地区課題	越智町、大椎町、大木戸町、高津戸町は戸建ての団地があり、町丁別に見ると高齢化率が40%を超えている地域もあり、独居又は高齢者のみの世帯が多く、介護保険や認知症に関する相談件数も増加している。孤独死のリスクや老老介護をしている世帯も多く見受けられ、地域で高齢者を見守れる体制整備が必要。上大和田町、下大和田町は同居世帯が多く、相談件数は少なく、家庭内で介護を行う傾向がある。あすみが丘、あすみが丘東以外の地域は高齢化率が30%を超えている状況。あすみが丘は地方から高齢の親を呼び寄せる世帯も多く、あすみが丘東は近年開発が進み、子育て世代が多く移り住み、地域のつながりにはばらつきがある。入院できる医療機関が一か所しかなく、総合病院ではない為、他区や市外の病院へ入院や通院をしなければならない状況にある。圏域全体に交通手段の利便性が悪く、通院や買い物等移動に困る高齢者が多い。				
活動方針	医療・介護関係機関や保健福祉センター、社会福祉協議会等の専門多職種及び民生委員や社会福祉協議会地区部会、町内自治会等の地区組織と連携協働し、地域支援ネットワークを構築し、地域包括ケアシステムの推進を図る。				
センター業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> 4 地区の民児協の定例会や自治会の会合、社協地区部会の総会等地域の関係者の集まる場へ出向き、顔の見える関係づくりを継続し、相談しやすい体制をつくる。また、蓄積した地区別の相談件数や相談内容等の分析や地区診断を行い、地域の関係者へフィードバックすることで一緒に地域を考える機会をつくる。 地域ケア会議を月1度継続して行い、地域を4つに区分けし1か所づつ地域課題や地区資源について検討し地図に落とし込むことで見える化、共有を図り、課題解決に向け検討する。 支援困難ケースについては緊急性の判断や支援方針を検討しチームで支援し必要に応じて関係機関と連携しケース会議、地域ケア会議を行い、解決に向け取り組む。 警察や救急隊、高齢者の関わりが多いスーパーや商店との連携を図れるよう働きかけを行う。 		<ul style="list-style-type: none"> 地域の関係団体が行う会議へ参加することで顔の見える関係ができ、ちょっとしたことでも相談して頂けるようになっていく。また、地域の高齢化の状況やこれまで蓄積した相談内容等の実績について関係者へフィードバックを行うことで、センターの活動状況を知って頂くこと、地域の実情の共有が図れた。 地域ケア会議については継続的に開催できたが、地域課題や社会資源をマップに落とし込む作業について当初は4つの地区に分けて行う予定であったが、圏域全体での検討となり範囲が広く、より細かな資源の落とし込みまでは至らなかった。マップに落とし込むことで可視化でき、関係間での共有が図れた。次年度以降は中学校区単位での検討ができるようにする。 個別支援については支援が困難なケース等について、関係機関を交え、個別ケース会議を開催し、支援方針を検討し、対応にあたっている。警察や救急隊、自治会の見守り活動団体や学校等様々な関係機関と連携を図る機会があり、更なるネットワークの広がりができた。 	
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員や介護支援専門員等に対して高齢者虐待に関する啓発活動を行い、虐待の通報が入った際には区の高齢障害支援課と連携し、必要な支援を迅速に行う。 区高齢障害支援課と緑区あんしん社会福祉士職で月に1度虐待対応連絡会を開催し、虐待ケースの情報共有と対応方法の検討を行う。(年12回) 区担当者や区内のあんしん3センター三職種で権利擁護に関する勉強会を開催する。(年3回) 地域住民や民生委員、介護支援専門員に対し、成年後見制度や日常生活自立支援事業について情報発信し、啓発活動を行う。 高齢者の状況に応じて区高齢障害支援課、成年後見支援センターや関係団体との連携を図り、成年後見制度利用につなげる。 悪質商法等に関する情報提供を広く行い、消費者被害を予防すると共に、被害を発見した場合には、消費生活センターや警察と連携し対応する。 		<ul style="list-style-type: none"> 民生委員や圏域内の介護支援専門員に対して高齢者虐待や成年後見制度等に関する勉強会を開催し、権利擁護に関する啓発活動を実施することができ、権利擁護に関する意識付けが行えた。 虐待が疑われるといった相談に対して、職員複数で訪問し、事実確認及び継続的な状況確認を行っている。警察の介入をきっかけに緊急的に分離保護したケースもあり、警察や区高齢障害支援課と連携し、迅速に対応が行えた。 虐待対応連絡会及び3センター合同での勉強会を実施し、虐待ケースの共有と対応に関する意見交換、虐待に関連する事項等学ぶことができた。 相談対応の中で、親族と疎遠で判断能力も低下しており、成年後見制度利用が必要と思われるが、親族の理解が得られず、申し立てに至らないケースも多く見受けられ、成年後見支援センターやNPOとも連携をとるが、なかなか進まないことが多かった。成年後見制度には繋がらなかったが、日常生活自立支援事業に繋がったケースも複数あった。 消費者被害に遭っているケースについて消費生活センターと連携し、権利回復につながったケースもあったが、消費者被害については相談件数が非常に少なかった。ただ、潜在的に被害に遭っている高齢者も多くいると思われ、今後も周知活動を継続的に行っていきたい。 	
	包括的・継続的・ケアマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> 地域の介護支援専門員に対して連絡会や事例検討会の開催。(年8回) 介護サービス事業所に対して資質向上のための講演会の開催(年2回) 緑区内の主任介護支援専門員に対して連絡会を開催し、主任介護支援専門員の資質向上、実践力向上を図る。(年3回) 介護支援専門員から寄せられる困難事例の相談への支援を行い、状況に応じて関係機関と連携し、ケース会議や地域ケア会議を開催し個別ケースを通じ、地域課題の把握と課題解決に向け取り組む。 生活支援支援コーディネーターや社協、民生委員、自治会、介護支援専門員等と地域ケア会議、地区診断を行い、地域課題、地区資源について見える化し、課題解決に向け取り組む。 多職種連携会議、医療機関MSWと意見交換会を年4回程度行い、在宅医療・介護の連携促進、多職種、多機関で連携協働体制をつくり、地域包括支援ネットワークを構築する。 		<ul style="list-style-type: none"> 圏域のケアマネ連絡会を3回開催する。特に2回目の圏域の連絡会では今年度で3度目となる民生委員と圏域のケアマネジャーとの意見交換会を行った。今回は生活支援コーディネーターと共に今ある地域資源について、また必要とされる地域資源についてマップ化し、意見交換を行った。地域資源に目をむけることができ、共通の課題について考えることができた。圏域ケアマネと民生委員が作成したマップを生活支援コーディネーターがまとめたものを、市のホームページにアップされた。 事例検討会では回にもよるが概ね20名〜25名くらいの参加があった。事例検討を重ねていくうちに、男性高齢者の支援に対してのケースで困っていることが多く、男性だけで話せる場所作りが必要ではなど活発な意見交換が行われ、共通の課題があがった。 地域ケア会議については課題検討のための定期的な地域ケア会議と個別ケース会議はできたが、個別ケースで個別課題に対する地域ケア会議があまり開催できなかった。 	
	介護予防センター	<ul style="list-style-type: none"> 住民が歩いて通える集いの場ができるよう、リーダーになりうる人や集まれる場所などの情報収集を行う。 住民運営の通いの場の立ち上げのきっかけとして、ちばいきいき体操やシニアリーダーなどのツールを活用できるように、健康課やシニアリーダー事務局と連携を取っていく。 いきいきサロンへ訪問し、健康づくりや介護予防についての講話や体操など参加者やボランティアの方のニーズに合わせて実施する。 圏域内の2か所のいきいきセンターにて、介護予防等に関する講演会を実施。(年6回) 内容についてはいきいきセンター担当者として検討を行う予定。 ふるさと祭りへの参加。 ラジオ体操を週3回実施。 		<ul style="list-style-type: none"> 高齢者が地域で自立した生活を続けられるよう、二次予防対象者を把握し、元気アップ教室の参加を促すことを目標としたが、総合相談からは二次予防対象者に該当する相談者はとても少なく、把握が難しかった。健康相談から元気アップ教室へつながった方が一名。その方は、これまで体を動かす機会がなく、何となく体力の低下を感じておられたため、元気アップ教室に参加することで、介護予防に関する知識やたくさんの体操を実践することで、今後も継続する必要性を感じたとの感想を聞くことができた。 人数は少なかったが参加した方にとってはとても有意義な内容であったと思われる。今後も継続していきような場を、それぞれの住宅環境やニーズに合ったものを案内できるように、地域の情報を集めたり、ニーズに合うものがなければそういう場を作り出すということができることにより、健康を維持されている方も多く、しばらく来所されていない方に対して状況確認等はできておらず、今後の課題とする。体操教室は月に1回定員が12名。毎回11名平均で参加があり出席率は高い。2年前から1年に1回体力測定を実施。健康への意識を高められるよう、毎回介護予防についてのミニ講話も取り入れながら実施している。 いきいきセンターで実施している講演会は、いきいきセンターの担当者や打ち合わせを行い、内容を検討している。介護予防という大きなテーマより具体的なテーマの方がニーズが高いというお話を聞き、今年度は「体を支える足の裏」というタイトルで実施した。来年度もニーズに合わせて計画していきたい。 	
	普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> 毎月1回健康相談を実施。(年間12回) そのうち2回は足指測定会・骨密度測定会を行う予定。 月に1回体操教室を実施。(年間12回) 介護予防や健康増進に関するミニ講話もあわせておこなっていく。 ちばいきいき体操を行う自主グループのサポートを行い、地域で広がっていく仕組み作りを検討する。 いきいきサロンへ訪問し、健康づくりや介護予防についての講話や体操など参加者やボランティアの方のニーズに合わせて実施する。 圏域内の2か所のいきいきセンターにて、介護予防等に関する講演会を実施。(年6回) 内容についてはいきいきセンター担当者として検討を行う予定。 ふるさと祭りへの参加。 ラジオ体操を週3回実施。 		<ul style="list-style-type: none"> 介護予防に関する知識の普及啓発について、年間で計画したものに關しては、概ね計画通り実行することができた。健康相談は、毎回来所された方のデータを記録し、次回来所された際の参考としており、毎回10〜20名(延べ146名(H26年度より))が来所されている。相談から介護保険の利用や施設入所につながった方や、緊急通報装置設置の案内、二次予防事業、地域の体操教室等への参加につながり、健康を維持されている方も多く、しばらく来所されていない方に対して状況確認等はできておらず、今後の課題とする。体操教室は月に1回定員が12名。毎回11名平均で参加があり出席率は高い。2年前から1年に1回体力測定を実施。健康への意識を高められるよう、毎回介護予防についてのミニ講話も取り入れながら実施している。 いきいきセンターで実施している講演会は、いきいきセンターの担当者や打ち合わせを行い、内容を検討している。介護予防という大きなテーマより具体的なテーマの方がニーズが高いというお話を聞き、今年度は「体を支える足の裏」というタイトルで実施した。来年度もニーズに合わせて計画していきたい。 	
地域活動介護予防	<ul style="list-style-type: none"> 緑区支え合いのまち推進協議会会議へ参加し、社会福祉協議会をはじめ地域の関係団体との地域福祉推進に向け話し合う。(年5回) また、地域の見守り活動実施団体との連携を図る。 自治会との繋がりができるように自治会の会議等への参加する。 地域の関係団体と連携し、認知症サポーター養成講座を行う。 認知症の高齢者やその家族、地域住民が気軽に集える認知症カフェやコミュニティカフェの立ち上げに住民、ボランティア等が主体的に取り組めるよう支援を行う。 27年度に行った地区診断を元に地域の各担当者や情報交換の機会を作り、具体的な情報を知ることで各地区の課題や問題点・活用できそうな地区資源を整理する。 		<ul style="list-style-type: none"> 社協地区部会やシニアリーダーの会議や研修会へ参加することで、各サロンや散歩クラブ等の様子を知ることができ、困りごとや課題についても知ることができた。同じように地域住民が自立して健康維持介護予防への取り組みができるような街づくりを目的として活動されている。今後はそういった活動を協働してできるようになるとより有効な活動へとひろがるのではと思われる。来年度もそのような活動の場へ出向き、協働できるような仕組みについて検討していきたい。 		
その他	<ul style="list-style-type: none"> 民児協の定例会や社協地区部会総会や、いきいきサロン等地域の高齢者や関係者が集う場へ出向き、あんしんケアセンターの周知活動を行う。 居宅介護支援事業所や居宅サービス提供事業所の紹介にあたっては利用者のニーズ、希望を最優先に考え、不当に偏ることのないようにする。紹介台帳を作成し、公平性を保てるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> 1年間を通して地域のサロン等高齢者が集まる場や地域の関係機関や団体が開催する会議等へ出向き、センターの周知活動を継続して行うことでセンターの周知が広がっている。広報誌を年2度作成し、自治会での回覧を依頼している。 居宅介護支援事業所や居宅サービス事業所についての紹介について不当に偏ることがないよう紹介台帳により可視化ができ、公正中立を維持している。 		

※人口データは平成28年6月30日現在

平成28年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 真砂		主任介護支援専門員 (1) 人	社会福祉士 (2) 人	保健師等 (1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	28,420			
	高齢者人口	7,628			
	高齢化率	26.84%			
担当圏域 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> ・独居・高齢者世帯が多く、その中でも新しく転入する人が増えてきている。近隣との交流が希薄なため問題が潜在化しやすい。 ・エレベーターのない高層住宅が多数あり、外出困難の問題を抱えている。 				
活動方針	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が、住み慣れた地域で、安心して暮らせるように支援が必要な高齢者の早期発見に努め、適切な支援につなげる。 ・地域包括ケアの推進に向けて、地域の関係機関や関係団体とのネットワーク構築を図る。 ・市と連携し、総合事業に向けた準備態勢を整える。 				
センター 業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	総合 相談 支援	<ul style="list-style-type: none"> ・朝礼時のミーティングで相談ケースの情報共有を行う。 ・所内で勉強会を行う（月1回） ・地域ケア会議を開催する。（年4回） ・地域の社会資源の把握を行い、連携し支援する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・相談機関として地域への周知が進んだことで、相談が増加傾向にある。以前に比べると、介護保険以外の複合的な問題を抱えた相談が増えている。そんな中で、3職種が協力してチームアプローチができたことは、職員のスキルアップにつながり、また、効果的に対応ができた ・社会資源の情報整理化と職員間の情報共有化により、効果的な活用ができた ・地域課題である外出困難をテーマに地域ケア会議を開催できたことは成果。継続テーマとして、引継ぎを行う 	
	権利 擁護	<ul style="list-style-type: none"> ・権利擁護に関する研修に積極的に参加する。 ・区担当者や連携し、キー機関として迅速な虐待対応を行う。 ・成年後見制度の申し立て支援を行う。 ・区内センターの社会福祉士会に参加し、連携を図る。（年3回） ・地域住民に向けて、成年後見制度や消費者被害に関する講座を開催する。 ・自治会や介護支援専門員に向けて、消費者被害情報を提供する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・成年後見制度に関する研修への積極的な参加により、職員の啓発意識が向上。それに伴い、相談者へ積極的に情報提供ができた。申し立て支援から保佐人が3人決定。消費者被害を防止できたケースがある ・日頃の区の担当者との情報共有の成果として、虐待発見、迅速な対応につながった 	
	ケ ア 包 括 的 ネ ジ メ ン ト ・ 継 続 的 ト ・	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域の介護支援専門員連絡会を開催する。（月1回） ・区合同による介護支援専門員連絡会を開催する。（年2回） ・個別課題解決に向けた地域ケア会議を開催する。 ・多職種連携会議を開催する。（年2回） ・介護支援専門員の困難事例への支援を行う。 ・認知症に関する研修に参加し理解を深める。 		<ul style="list-style-type: none"> ・圏域のケアマネジャーが少ないこともあり、圏域ケアマネ連絡会の運営に悩むところがあった。途中より、介護サービス提供事業者にも声をかけ、施設ケアマネ、相談員など職種を広げたことで、地域の介護サービス事業者の顔つなぎや実情がわかり、今後につながるものとなった 	
	マ ネ ジ メ ン ト ケ ア	<ul style="list-style-type: none"> ・総合事業に関する研修に参加し、ケアマネジメントの理解を深める。 ・市と連携し、総合事業に関する情報共有を行う。 ・要支援者への介護予防プランの作成を行う。 ・委託した介護予防プランの適正な管理を行う。 ・区健康課と定期的な会議を開催し情報共有を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・要支援者へ介護予防プランの作成を行った。委託のプランについては、次年度担当センターに滞りなく引き継げるよう、適正管理に努めた ・総合事業への研修に参加したが、全体像が見えにくく、課題となった 	
	普 介 護 予 防 啓 発	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民・団体・職場・学校を対象に認知症サポーター養成講座を開催する。 ・自治会・老人会、自主グループ等に向けて介護予防講座を実施する。 ・あんしんケアセンター体操教室を実施する。 ・サロンぐるりの運営を行う。 ・真砂いきいきセンターと連携を図り、介護予防講座、認知症サポーター養成講座を開催する。 ・美浜区フェスティバルへ参加し介護予防の啓発を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自治会や老人会にシニアリーダー体操やいきいき100歳体操を啓発し、立ち上げにこぎつけた。その活動の中で真砂いきいきセンターや社会福祉協議会、新設の特養などと連携が図れた ・認知症サポーター養成講座を実施。今年度は回数は少なかったが、中学校向けに今までと違うスタイルで実施し好評を得た。年代に即した講座を工夫していくことが必要と感じた 	
	地 域 活 動 介 護 予 防	<ul style="list-style-type: none"> ・シニアリーダーの育成支援を行う。 ・ぐるり体操教室を立ち上げ、後方支援を行う。 ・ささえあいまさごの運営支援を行う。（年4回情報交換） ・ラジオ体操の活動支援を行う。 ・自主活動組織の発掘、活動支援を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の介護予防に関する意識が高く、自主体操グループの自主化につながった。継続に向けて後方支援ができた 	
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のニーズに視点をいた介護サービス事業所の選択を行い、特定の種類やサービスに偏ることのないようにする。 ・様々な機会をとらえて、地域に向けて周知活動を行う。（年2回広報誌配布） ・市主催の研修会や会議に参加。事例対応など連携していく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・あんしんケアセンターの公益性確保のために、介護予防サービスの事業者の選定に当たり、偏らないよう依頼した 		

※人口データは平成28年6月30日現在

平成28年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 磯辺		主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等
			(2) 人	(2) 人	(1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	56,829			
	高齢者人口	11,630			
	高齢化率	20.46%			
担当圏域 地区課題	地区により高齢化率や地域特性にも大きな差がある。高齢化率の高い地区にはエレベーターのない中層団地が多く外出困難となってくる。圏域内には医療機関、介護事業所などの社会資源や高齢者が歩いて行ける範囲の商店なども少ない。				
活動方針	各地区の特性やニーズに合わせた地域包括ケアシステムの構築へ向けて、保健福祉センター、医療機関、介護サービス事業者、民生委員、自治会、社会福祉協議会等との連携を深め協働して取り組む。また、関係機関との連携を取りながら地域での住民主体となれる活動の促進を図る。				
センター業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員、社協地区部会、自治会、住民団体等の会議、またサロン等への参加をし、センターの周知と情報交換を行う。 個別ケースの地域ケア会議の開催を通して関係機関や地域の活動団体等とのネットワークを構築し、日々の相談対応に活かして行く。 打瀬地区での出張相談（月1回）を継続して実施。 センターの相談内容を基に地区特性を把握し、地域の関係者への情報提供、情報交換を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> 民生委員、自治会、老人会、磯辺福祉協力員、うたせ認知症を考える会、幕張西見守りボランティアなどの会議や集まりへの参加、講座の開催などにより、あんしんケアセンターの周知や連携を図っている。各地区の地域の状況や特徴に合わせて、計画的に実施していきけるようにしていく。 今年度は計画していた前年度の相談内容の集計、分析と地域への情報発信ができずに終わってしまった。次年度は作業スケジュールをしっかりと立てて実施していく。 	
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> 区内センターの社会福祉士、区高齢障害支援課の連絡会の定期開催。 地域住民向けに消費者被害防止の啓発を行う。 権利擁護が必要な高齢者に対し、後見支援センター、消費生活センターを始め、支援団体等との連携に努めて相談対応をしていく。 		<ul style="list-style-type: none"> 区高齢障害支援課とは、区内4センター社会福祉士での連絡会では事例検討の他、法テラスや警察署からとの情報交換も実施した。個別ケースにおいては、成年後見支援センターや消費生活センターとの連携も持っているが、住民向けの啓発活動が十分に実施できていないため、次年度は他の講座等との組み合わせなどで計画的に実施回数を重ねていきけるようにする。 	
	ケア包括的 ネットワーク 継続的 ト	<ul style="list-style-type: none"> 区内センター合同での介護支援専門員連絡会の開催。 センター圏域内の居宅介護支援事業所へのアプローチにて個別支援の実施。 美浜区多職種連携会議の開催。 美浜区連携の会への参加。 		<ul style="list-style-type: none"> 介護支援専門員連絡会連絡会にて、ICFの勉強会や地域の磯辺福祉協力員との連携としての合同研修を実施。介護支援専門員と地域のインフォーマル団体等との連携を進めていきけるようにしていく。 また、事業所訪問での介護支援専門員との情報交換を次年度も継続して実施していく。 	
	介護予防 マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> 区内センターと区健康課との連絡会の開催。 生活支援コーディネーターとの連携にて情報共有。 総合相談の中での基本チェックリストの実施にて二次予防への啓発。 		<ul style="list-style-type: none"> 今年度の二次予防事業は、対象者把握も十分に実施できず、教室参加につながった方は1名のみだった。次年度は介護予防日常生活支援総合事業へ移行となるため、制度理解を進めながら適切な実施をしていく。 	
	普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> センター主催での体操教室、ラジオ体操の開催。 地域の関係団体、サロン等との連携にて住民への各種講座の開催。 住民向け認知症サポーター養成講座、美浜区認知症キッズサポーター養成講座の開催。 認知症家族交流会の開催。 		<ul style="list-style-type: none"> 認知症サポーター養成講座は美浜区キッズサポーターの他、一般向けには市を通しての依頼だけでなく、地域の活動の中から民生委員や自治会、老人会などでの実施も重ねてきている。 また、その中で介護予防に関するアンケートを実施し体操教室立ち上げに向けた意向調査なども行っており、一つの講座から内容を広げていくこともできている。 	
	地域活動 介護支援 予防	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員、自治会、老人会等の役員、メンバーへの各種講座の開催。 磯辺福祉協力員をはじめ、各地域の住民活動やNPO等への各種講座の開催や連携を行う。 関係機関や団体への認知症サポーター養成講座の開催。 住民の自主サークル立ち上げへの初期支援と継続した後方支援。 		<ul style="list-style-type: none"> 今年度はセンター主催の体操教室のうち、2ヶ所を自主サークル化することができた。それぞれ参加者の意向に合わせた形となるため途中からの自主化は難しい面もあった。引き続き活動支援を実施していく。 また、地域の中で住民主体で立ち上がる教室も増えてきており、それぞれにセンターとしても立ち上げ時や継続中でのフォローを実施していく。 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> 市で実施する公正中立調査の他、項目を増やしてのセルフチェックを行う。 		<ul style="list-style-type: none"> 公正中立な業務実施として、各職員においても紹介する事業所の偏りがないように認識して業務にあたっている。介護支援専門員の紹介数についても普段からセンター内での状況を把握できるようにしていく。 		

※人口データは平成28年6月30日現在

平成28年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 高洲		主任介護支援専門員 (2) 人	社会福祉士 (2) 人	保健師等 (1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	42,930			
	高齢者人口	11,436			
	高齢化率	26.64%			
担当圏域 地区課題	<p>当地域における高齢者像を大別した場合、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 当地において以前より暮らされるコミュニティーをもった方々 2. 他県、他地域より新たな環境を求めて転入された健康面・経済面に恵まれた方々 3. 同じく他県より転入されたが身寄りが無くコミュニケーションツールもない、引き籠もりがちな方々 4. 高齢者世帯、同居者がいながらも疾患等抱える世帯の増加により、対象者の支援が困難になっている。 <p>当センターとしては、引き続き 3、4 に該当される方々の状況把握と課題解決に向け、積極的な関与を引き続きを行う。認知症高齢者、身寄りのない住民からの相談が増えており、外国人高齢者の相談が増えていくことが今後考えられる。</p>				
活動方針	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が安心した生活が過ごせるように積極的に関与していく。 ・地域組織も把握、関係を深めることで予防、見守りを強化していく。 ・地域で起こる問題に対してワンストップ窓口となれるように引き続き努める。 ・市民に対しての所在を明確化し、行政の担当部署に対し積極的関与を促すための連携を図っていく。 ・各種会議への参加、開催により他機関との連携強化に努める。 				
センター業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> ・関連機関との連携、担当者会議開催における情報共有 ・地域ケア会議の開催 ・多職種連携会議の開催 ・データ分析における実態、社会資源の把握に努めていく。 ・在宅医療や介護に関する情報収集に努め、連携体制づくりに取り組んでいく。 ・美浜区見守りネットワークの推進 ・外国人高齢者の相談対応の体制をつくっていく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・総合相談は解決に長期間かかるケース、以前関わったケース（2次予防の方等）、認知症のケースの方等が増えており、複数での対応や受診の付き添い、各機関との連携を多く図った。今後相談記録の管理をより細かくしていく必要がある。 ・課題解決の1つとしては各種会議における連携、共有であるが、地域ケア会議においては状況をみながら実施出来たと思う。ただ一時的なものだと、その場での話し合いに過ぎないので、定期的会議の開催も頭に入れていく。 ・多職種連携会議に関しては区4センター協力のもと連携を図りながら実施出来ている。薬剤師の参加希望もあり、今までもテーマによりそれぞれの関係機関に出席依頼をかけたが、今後もより幅広い関係がづくりが出来ると期待している。 	
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> ・関連機関との連携、担当者会議開催における情報共有 ・地域住民、自治会、民生委員等を対象とした、啓蒙のための講演会の実施 ・成年後見チェックシートの活用（現状→予防→介護→終末）のプロセスを伝える ・認知症サポーター養成講座の実施 		<ul style="list-style-type: none"> ・昨年より地域ケア会議で取り上げられてきた後見制度の普及であるが、4月に講義を行い盛況であった。課題となったのが特定の地域しか出来ず、当初圏域全般で行っていくという目標は達成出来なかった。ただ個別での相談においては専門機関と連携を図ることが出来、地域ケア会議の出席してもらった中で、情報共有や後見人への支援に結び付けることが出来た。市長申し立てに関しては区の動きが読めずなかなか進まなかったことが例年の問題点である。 ・認知症に関する活動は個別ケースで頻繁に受診の付き添いをして医師との連携が図れた。住民への理解という面で、サポーター講座等の講義を計画的かつ突発的な依頼にも応じた。キッズサポーター講座という形で、小、中学生向けに工夫をしている中一般の講座においてもその地域、住民の特色や人数等により変化をつけて理解しやすいよう行った。 ・虐待ケースはケアマネージャーからの相談が多く、家族との面接、同行訪問を含め、随時経過観察を行い解決に向けた動きをとった。 	
	包括的・継続的・ケアマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・関連機関との連携、担当者会議開催における情報共有 ・介護支援専門員事業所との連絡会を開催 ・社会資源を記した「サポートブック」の更新を随時行い配布する。 ・関係機関情報をまとめた資料の情報提供 ・地域の居宅介護支援事業所への訪問 		<ul style="list-style-type: none"> ・総合支援事業に向けてケアマネージャーに対しての連絡会を計画していたが、提供できるほどの情報が足りず今年度は開催出来なかった。今後の課題として自センターでも知識を高め情報を提供していきたいと思う。 ・困難ケースにおいては継続した関わりをもつ中で相談、同行訪問、会議の出席等の支援を行った。困難ケースが多く、あんしんで先に関わりタイミングを見はからってケアマネージャーに引き継ぐといった流れのものが多く、その後の連携が図れている。 ・圏域内の事業者訪問によりケアマネージャーが抱えている問題の確認や情報共有に努めた。 	
	介護予防センター	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動を関連機関と連携を図りつつ、創設し支援していく。 ・介護予防対象者のケアプラン作成 ・予防プログラムの創設及び支援 ・介護予防対象者への日常生活調査（緊急対応把握等） ・食に関する予防資料の作成をして、住民に配布 		<ul style="list-style-type: none"> ・総合支援事業に開始にあたって適確なサービスの提供が出来ているかセンター内での見直しを行った。今後委託事業所に対してのチェック項目も変わってくるのでセンター間での話し合いを随時設けた。 ・地域のサロン、教室、ボランティアへの指導等定期的に行われている中で、今後総合事業にいかん活用していくかが課題とされている。その中で関係機関との話し合いの場をおし情報共有を行うことが出来た。 	
	普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の方々を対象とした講演会 ・民生委員連絡会、自治会への参加 ・高洲夏祭りの参加 ・地区食事会への参加による社協との連携（1回/月） ・ふれあい体操の実施（1回/月） 		<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員の会議の場への出席、また地域ケア会議等の連携会議にも参加していただき問題解決に取り組んでいる。民生委員からの相談も増え、同行訪問もしていただいているケースも多いので早期解決に向けての支援が出来ている。 ・社会資源の探求は1年通し行い、社会資源を記したサポートブックを随時更新。住民型サービスに向けての促しや自助、互助を意識していただくようお話しするケースも多かった。現実的にはサービスや資源の拒否により、状態が落ちてからの相談やなかなか自発的に行動されない方が多かったため、今後の課題となった。各種講演会等では随時そのようなお話も言い続けている状況である。 	
	地域活動介護予防	<ul style="list-style-type: none"> ・住民による自主サークル活動の立ち上げ、運営支援 ・リサイクルを活用した福祉用具等の情報提供及び貸出 ・ラジオ体操への継続、見守り ・脳トレ教室のサポート（1回/2月） 		<ul style="list-style-type: none"> ・今年度立ち上げたシニアリーダー、いきいきプラザ、健康課と連携を図った地域の企業のイベントホールを借りた予防企画は成功している。元々シニアリーダー体操の普及に努めた企画ではあったが、各機関それぞれが予防企画の告知や体操や食事の指導も行うことが出来、幅広いものとなっている。このイベントに於ける地域ケア会議においては地域の特性を改めて考えることもでき、随時連絡、話し合いの場をもうけることで課題をみつけ修正にあたっている。 ・地域のラジオ体操においては人数が大幅に減少していることで、総合相談でも促している。そんな中URの集会所でいきいき100歳体操が毎週行われ、運動した予防が図れている。 ・随時福祉用具の相談もあった中、適度な貸し出しにより支援を行うことも出来た。 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・区内4センター合同の事業を計画実施していく。 ・区、区内4センターとの連携を図り、小中学生を対象とした認知症キッズサポーター講座を計画通り実施していく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・区4センターの連携は図れており、キッズ認知症サポーター講座、区民フェス、市民ワークショップ、区との連携会議等の活動を無事終えることが出来た。 ・苦情がいくつかみられていた中でも市の協力もあり、早期解決を図れた。常にリスク管理を行っていく事で、今後も対応に努めていきたい。 ・公正・中立の面では問題はみられなかったが、今後総合支援事業が始まることでサービスを提供する事業者が限定される中で、早くから連絡等を取り対策を練った。 		

※人口データは平成28年6月30日現在

平成28年度千葉市あんしんケアセンター運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 幸町		
	主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等
	(1) 人	(2) 人	(1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	20,511	
	高齢者人口	5,575	
	高齢化率	27.18%	
担当圏域 地区課題	高齢独居世帯の孤立化や孤独死の問題、消費者被害、賃貸住宅の退去、認知症、アルコール依存症、精神疾患等、権利擁護の絡む複合的な問題にも取り組む必要がある。エレベーターのない5階建ての団地では、上層階に住む高齢者の外出問題も緊迫している。		
活動方針	千葉市あんしんケアセンターの運営方針に基づき、市と連携を図りながら地域包括ケアシステムの構築・強化に取り組む。精神や認知など何らかの疾患を抱えていたり、他国より転入され言語の壁がある住民、及び外部との接触を拒否する住民の存在に対し、状況把握と課題解決に向け、取り組んでいく。既存のネットワークと連携を図り、高齢者の外出の場づくり、見守り、声かけを実施する。今後急増すると予測される高齢独居世帯などに対して、健康教室や勉強会などへの参加を促し予防的な視点(地域リハビリテーションの構築も含む)での関わりを強化する。		
センター業務	項目	具体的な活動計画	自己評価
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> 多職種連携が図れるよう、各関係機関との地域ケア会議や連絡会を開催。 地域資源の把握及びマップ等の作成を行う。 地域住民と共働で見守りを行う体制を強化し、課題や問題の早期発見に繋げる。 高齢者により身近な機関(郵便局、スーパー、コンビニ)等の連携を強化する。 継続支援が必要なケースを抽出。各関係機関と連携を図り、フォローしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> センター内で情報の共有化を図り、適切なサービス、制度、社会資源の利用に繋げ、課題解決に努めることができた。 若年層を含め、年代等縦割りにならない支援を行えるよう関係機関の働きかけを行い、連携を強化した。 業務内容が多く、継続的な支援が必要なケースへの対応が不十分。 月1回カフェでの出張相談の件数は伸びなかったが、近隣住民が要支援者をカフェに連れ出しその場で相談に乗ることもできた。 専門性を要する複合的な問題ケースに対応するために、区保健福祉センターの複数の課と継続して連携を強化する。 認知症等により介入拒否がみられるケースに積極的に関わり、医療や適切なサービスに繋ぐことができた。 入退院時における情報の共有や支援体制等、医療との連携に課題がある。今後の対応を検討する。
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> 対応に時間を要する複合的なケースも早期解決に向け、多職種との連携を強化する。 地域住民、自治会、民生児童委員等を対象とした、高齢者虐待防止、成年後見制度、消費者被害防止の普及啓発を行う。 認知症サポーター養成講座を開催する。 高齢障害支援課や区内のセンターと定期的な連絡会を開催し、事例検討や情報の共有を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者虐待なのかDV対応になるのか判断に迷うケースが増えたが、行政や関係機関と連携を図りながら早期対応に努めた。 認知症サポーター養成講座を積極的に受け入れ、講座を開催。講座の内容の骨組みができていたので、効率的に準備することができた。 認知症サポーター養成講座を通し、核家族化、地域のつながりの希薄化、孤立化に対する幼少期からのアプローチや支援の必要性を実感した。今後も講座を継続し、サポーターへの継続支援も検討する。 地域ごとの権利擁護のニーズを把握し、効率的な普及啓発に努める必要がある。
	包括的・継続的なケアマネジメント	介護支援専門員からの相談に適切に対応するため、体制を整備する。(職員の役割分担や育成) <ul style="list-style-type: none"> 圏域内の介護支援専門員の連絡会を継続し、抱えている悩みや課題、ケアプランの現状等を把握する。 担当圏域内の居宅介護支援事業所の数も少なく、その中で圏域内の利用者担当数も少ない。効率の良い圏域内の情報提供を検討していく。 支援困難ケースへの相談に対応し、各関係機関やインフォーマルなサービスを含め地域のネットワークを構築していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会資源等の情報収集は随時行い、定期的に整理する必要がある。 困難ケースや複合的な問題を抱えるケースに関し、多職種多方面からの支援を行う事ができた。今後も適正な支援ができるよう、対応していく。 総合支援事業への移行がスムーズに行えるように、介護支援専門員の連絡会を定期的に開催する。 生活支援コーディネーターと協働し、総合支援事業に向けた情報収集や新たなネットワークの構築を図る。
	介護予防ケアマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> 対象者に適した事業参加の推進を行う。 健康課と連携し、圏域内で出張健康教室を開催する。 健康課や区内のセンターと定期的に連絡会を開催し、連携を図る。 コミュニティーカフェの立ち上げ支援を行う。 コミュニティーカフェでの出張相談やミニ講座を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域のリーダーとなる人材を把握。健康課及び生活支援コーディネーターとも協働し、総合支援事業に向けた取組みを行う。 区健康課と定期的な連絡会を開催し、情報の共有化を図り、支援体制づくりを目指す。 総合支援事業に向け、介護予防ケアマネジメントを十分に理解する必要がある。
	普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> 区と協働し、Kids認知症サポーター養成講座を継続的に行う。 住民の自主サークルの立ち上げ、居場所づくりを行う。 センター主催の体操教室を継続する。 地域リハビリテーションの視点で、介護予防教室を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防教室はテーマによって参加者数に偏りが見られた。地域ニーズに合わせた内容を検討する。 介護予防普及啓発に対するアプローチが少なかった。支援が必要とされる引きこもりの方の対応に至っていない。 シニアリーダーが支援者として地域で活動できるように支援する方法の検討が不十分。 Kids認知症サポーター養成講座も2年目となり、講座の内容も固まってきた。児童、生徒の特徴も視野に入れ、講座の内容を考えることができた。
地域活動介護予防支援	<ul style="list-style-type: none"> 住民の自主サークルの立ち上げ、居場所づくりを支援する。 体操教室の参加者、地域ボランティア参加者、シニアリーダー養成講座参加者が自主的に活動ができる方に住民主体の体操へ移行できるように働きかけを行う。 地域リハビリテーションの視点で、介護予防教室を行う。 幸町2丁目一人暮らし高齢者等見守り支援事業(みまも〜れ幸町)の運営を継続して行う。 区内の関係機関、NPO法人、UR都市機構等と協議、連携を図り、地域の特性に必要な事業を開発、運営支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 幸町2丁目の地域カフェが軌道に乗り、住民の自主活動に繋がった。 地域のキャラバンメイトや認知症サポーターを活かした取り組みを検討する。 みまも〜れについて、各関係機関と連携を図り、効率の良い体制づくりを検討する。 介護予防活動の人材確保が課題。 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> 公平中立な組織運営を行う。 個人情報の取り扱いに留意する。 職員の資質向上の為、育成計画を作成する。 効率的な組織運営を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各職員が必要なスキルアップのために目標を持って研修に参加した。 公正、中立性を確保するために委託先やサービス事業所に偏りがないように努めた。 あんしんケアセンターの周知を図る必要性を感じた。 日々の相談業務に追われ、バランスのとれた効率的な組織運営ができなかった。 	

※人口データは平成28年6月30日現在